

第 4 回 館山市議会定例会会議録  
(第 2 号)



1 昭和58年12月21日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1番 神田 守隆	2番 田沢 勝信
3番 山中金治郎	4番 日下 君敏
5番 川名 正二	6番 生稻 隆
7番 榎本 春光	8番 小宮 利夫
9番 福原 勤	10番 横溝 功
11番 飯田 義男	12番 石井 謀
13番 石井 昌治	14番 伊藤幸太郎
15番 渡辺 昭夫	16番 松下 正己
17番 近藤 好雄	19番 黒川 平治
20番 石井 武敏	21番 吉田勇治郎
22番 林 豊	23番 伊賀 多朗
24番 流山源次郎	25番 五十嵐 昇
26番 石井 正	27番 安西 益男
28番 安澤 徳順	

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

第1号から選挙管理委員会委員長、選挙管理委員会事務局書記長、監査委員、監査事務局長を除く

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第2号)

昭和58年12月21日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時02分

○議長(石井 正君) 本日の出席議員数27名、これより第4回市議会定例会第2日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

### 行政一般通告質問

○議長（石井 正君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の12月17日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際、申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。

発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

1番議員神田守隆君御登壇願います。

（1番議員神田守隆君登壇）

○1番（神田守隆君）すでに通告をいたしました4点にわたって半澤市長の所信をお尋ねいたします。

まず第1点は、教育費の父母負担の軽減と就学援助制度についてということでございます。

日本国憲法第26条は「すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。」と宣言し、この権利を担保するものとして、国民に、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務及び義務教育無償の原則をうたっています。すなわち、だれでもが教育を受ける権利があり、この権利は経済的理由で侵害されることがあってはならない。国や市町村は、経済的理由で教育が受けられないことがないように、この権利を守る責任があるとの考え方をはっきりと示しているわけであります。

このことは、教育基本法や学校教育法の中で、より具体的に示されています。たとえば、学校教育法第25条では「経済的理由によって、就学困難と認められる学齢児童の保護者に対しては、市町村は、必要な援助を与えなければならない。」と、市町村の責任を明確にしているのであります。

近年の不況のもとで、賃金の実質的な低下、増税、公共料金の値上げな

ど市民生活をめぐる現況には大変に厳しいものがあります。小中学生の子供たちの教育費の父母負担も給食費、学用品費、通学費などその負担は年々重いものになってきています。本来無償であるべき教育費の負担が家計を圧迫する一因ともなっているのです。

こうした中で、館山市における教育費の父母負担のあり方、特に就学援助制度について市当局のお考えをお聞かせ願いたいと思うわけであります。

まず第1点は、就学援助の認定基準を明確にする問題であります。市の認定要領によりますと「準要保護の認定は、生活保護法に規定する要保護者に準ずる程度に困窮している場合」として、具体的には、前年度または当該年度において1、保護の停止または廃止、2、市町村民税の非課税、3、市町村民税の減免、4、個人事業税の減免、5、固定資産税の減免、6、国民年金掛金の減免、7、国保税の減免、徴収の猶予、8、児童手当の受給、9、世帯更生資金の貸し付けなどいずれかの処置を受けた者あるいは保護者が日雇い、休職者、職業が不安定でPTA会費などの減免、学校納付金などの納付状況の悪い者、経済的理由による欠席日数が多い者などというように14項目にわたって具体例を示しています。

確かに、14項目にわたるどれかに該当するかどうかということで、準要保護の認定基準を考えることもできるわけであります。しかし、生活保護法に規定する要保護者に準ずる程度に困窮しているというわけでありますから、本来これは一定の所得水準なり、収入基準なりで示せる問題であります。

現に、たとえば東京中野区では、その世帯の所得が生活保護基準の1.5倍以下を準要保護認定の所得水準の目安とし、具体的に父母、小学生1人、未就学児1人の4人家庭では所得額334万円、月収27万8000円以下。父母、中学生1人、小学生2人の5人家族では所得額421万円、月収35万1000円以下というように援助対象の所得水準や収入基準を示しています。

生活保護世帯に準ずる程度に困窮している準要保護世帯とは、生活保護世帯に対してどの程度の所得水準とお考えなのか、お聞かせを願いたいと思うわけであります。

第2点は、この就学援助制度そのものが父母等に十分に周知されてい

いために、本来受けられる援助も受けていないというケースが多くあることとであります。このことは、57年度決算に見られるとおり小学生で2.2%、中学生で3.1%の児童しかこの援助を受けていないことから推察できることとあります。

たとえば、全児童生徒の保護者あてに就学援助制度についてのお知らせを配布している東京の品川区では、55年度で1万人以上の小中学生が援助を受け、適用率は28.6%にも上っています。保護者あてに就学援助制度についてのお知らせをつくり、この制度の概要を十分に父母に知らせる必要があると思うのでありますが、この制度の周知を図るお考えはないのかどうか、お聞かせを願いたいと思います。

第3点は、手続のあり方についてであります。市の認定要領では、学校が低所得者全般について調査を行い、それらの中から該当者を選んでと規定していますが、これは事実上無理なことではないでしょうか。学校は子供たち一人一人の家庭の状況をつかむことは教育上必要なことであっても、その家庭の所得が低いのか高いのかというような立場で行うものではないからと思うわけとあります。まして、それらの中から該当者を選んでということとはできないことではないでしょうか。教育委員会の責任でこの制度の周知を図り、該当者から申請を求め、この申請について審査をするというように手続のあり方を変えるべきではないかと思うのでありますが、いかがお考えか、当局のお考えをお聞かせください。

次に大きな第2点、新年度予算編成と公共料金値上げの抑制、市民負担の軽減について市長の政治姿勢をお尋ねしようとするものであります。

市民生活の現況が大変に厳しいのは先ほども触れたとおりでございますが、新年度予算は、こうした中で市民生活の防衛をまず第一課題とするべきであります。こうしたことから、市の各種公共料金について市民生活を圧迫する値上げはするべきではなく、むしろこれまで消防関係、市道の舗装などで住民に寄付を押しつけていたことなどを直ちにやめるようにするべきであります。

こうした立場から、市長は、新年度予算編成にあたり、市民生活を圧迫する公共料金の値上げについてどのようにお考えを持っているのか、また消防、道路などの寄付の全廃についてどのように考えているのか、お聞か

せを願いたいと思います。また現時点で値上げを考慮しているものがあればお示してください。

第3点は、平久里川及び汐入川河口に歩行、散策用の橋をかける提案についてであります。

当市には那古、川崎、八幡、北条、館山とつながる海岸線を持っていますが、この海岸線は市民の大切な宝であります。この海岸線を市民の散策や憩いの場として生かすことは、館山市の観光施策の発展にもつながることであると考えます。しかし、現在の海岸線は平久里川、汐入川で寸断され、各海岸が有機的に連携を持って活用されていません。

川崎海岸には市民運動場があり、館山海岸には安房博物館があります。これらの施設と海岸線を一体のものとして生かしていくには、現在の車道とは別に汐入川、平久里川の河口に歩行者用あるいは散策用の橋をかけてはどうかと思うのであります。

最近では、富浦町が多田良海岸と原岡海岸を結ぶ橋をかけましたが、このような例は勝山や保田、岩井などにも規模の大小はありますが、実例があります。

現在の汐入川、平久里川にかかる橋の現況は、歩道もない状況でありますから、交通安全上も意義のあることと思いますが、市長のお考えはいかがですか、お聞かせください。

第4点は、市営住宅の集会所施設についてであります。市営住宅では、入居者が死んだ際、葬式をするのに狭過ぎてひつぎを入れることもできません。また通夜といっても中に入ることもできず、住宅の外に立っていなければならない人もでるありさまであります。市営住宅は一定の基準で大変狭くつくってあるわけですから、無理もないことでもあります。

公営住宅法第5条第2項では「事業主体は、1団の土地に50戸以上集団的に公営住宅の建設をするときは、これにあわせて集会所などの共同施設の建設に努めなければならない。」としています。

私は、公営住宅法の趣旨に沿って集会所がつくられることは、市営住宅入居者の願いであると思うんですが、市長はどのようにお考えか、お聞かせを願いたいと思います。

以上、4点にわたって御質問を申し上げましたが、御答弁によりまして

再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えいたします。

質問の第1点は、教育長より御答弁を申し上げます。

第2点、新年度予算編成と公共料金等の値上げの抑制、市民負担の軽減についてでございますが、昭和59年度予算の編成につきましては、現在その作業を進めておりますが、今後の経済の推移や国、県の動向を踏まえ、それらとの整合性を図りながら編成してまいりたいと考えております。

御質問の使用料、手数料につきましては、住民の理解を得ながら、その適正化を図ってきたところでございますが、今後とも経費の増大に伴う所要財源につきましては、住民負担の公平に配慮しながら、受益者負担の原則に基づいて対処してまいります。

次に、市道整備や消防の地元負担につきましても、従来から通減に努めてまいったところでございますが、今後とも財政状況を勘案しながら、廃止を含めて年次通減を検討してまいりたいと考えております。

次に第3点、平久里川、汐入川河口に歩行、散策用の橋をかける提案についてでございますが、汐入川河口に歩行、散策用の橋をかけることについては9月議会でお答え申し上げたとおり、遊歩道の一体化を考えて今後も県に要望していく考えでございます。また平久里川につきましては現在計画はいたしておりません。

第4点、市営住宅の集会所設置でございますが、市営住宅の集会所の必要性につきましては十分承知をいたしておりますが、敷地もございませんので、今後老朽住宅の建てかえとあわせて検討をしていきたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○教育長(安田豊作君) 第1項の教育費の父母負担の軽減と就学援助制度についての御質問にお答えいたします。

この問題については、いままでにも種々御質問をいただいておりますが、就学援助の目的は、教育の機会均等を基調に経済的理由により就学困難な児童、生徒に対して必要な援助を与えようとするものである。これはおっしゃるとおりであります。

対象児童、生徒の認定につきましては、学級担任等の意見を取りまとめた上で、学校長からの申請をもとに民生委員の意見を聞いて、国、県の指導である14項目——さっき神田議員のおっしゃった認定基準によって教育委員会で認定しております。

本年度は、当初予算で準要保護児童は110人1.98%で中学校生徒は73人で2.8%でございましたが、その後対象者の増加により小学校児童は125人2.25%、中学校生徒は86人3.32%となって、本議会に補正をお願いしているところであります。以上。

○1番（神田守隆君） 就学援助の問題について、そういうふうになっているということはわかるんですが、先ほど質問したことは、生活保護世帯に準ずる程度に困窮している準要保護世帯という認定ですね、これは具体的には、どの程度の所得水準だとお考えなのか、それをお示し願いたいと質問しているんですけれども、具体的には生活保護世帯の1.5倍というような形で規定している市町村もずいぶん多いようなんですけれども、そういうふうにお考えを願えるのかどうか。

○教育長（安田豊作君） 準要保護ということは、保護児童に準ずるという言い方をしておりますけれども、これは教育援助法という法律からいきますと、教育を受ける上に経済的理由で障害のある子供に援助をするんだということで、必ずしも収入の基準というようなものは国としては示していないわけです。県としても示さないで、さっき神田議員のおっしゃった14項目を基準にして拾え、こういうような指導でありますので、いまのところはそれで考えておりますが、収入というようなものはそういうものを拾っていく上でのかなりの要素になると思いますので、もちろんそういうことを考えに入れた上で今後考えていきたいと、こう思っております。

○1番（神田守隆君） 今後検討するということですから、十分検討していただきたいと思うんですが、大体私の調べたところでも1.5倍というような具体的な基準を示して、その基準の中で運用を図ろうというような考え方が非常に進んでいるようでありますので、そういう点を踏まえて御検討をお願いしたいと思います。

先ほどのお話では、文部省ではそうした考えを示しておらないということですが、それは間違いないですか、私の方では文部省の方でも一

定の所得基準について考えを示しているように伺っているんですが。

○教育長（安田豊作君） 私ども教育長会で、この問題についていろいろ質問、検討を文部省の係官と詰めているわけですが、その話によると、かつて昭和36、7年頃1回基準を示したことがあるようです。しかし、その結果がうまくいかなかったということでそれを引き下げて、14項目の項目をいまは挙げて、これによってやれと、こういう考え方のように私どもは受け取っております。

○1番（神田守隆君） 私の方で伺っているのは、昭和48年に文部省が生活保護世帯基準に対して一定の基準を示したように伺っているんですが、私の方でも十分確認がとれておりませんので、また調べた上で御検討願いたいと思います。

もう1点、重要なことですが、文部省のいろいろお考えというのがありますが、文部省の考えというのは、あくまでも各自治体が就学援助を行う、それに対する財政的な援助を行う。実施主体は文部省ではなくて、市自身が実施主体なんだ。こういうふうに思うんですが、そういう点では国の指導はあるにしても、それは実施主体である市の責任においてやることではないかと思うんですが、そこいらの判断について、この点について。

○教育長（安田豊作君） 法律のたてまえは、そういうことになっております。

○1番（神田守隆君） 次に、この制度の趣旨、これが先ほどのお話でも実際の援助制度の対象で援助しているのは小学校で2.25%、中学校で3.32%というようなことで、先ほど私が示しました品川区なんかでは28.6%あるいは長崎県の香焼町というところでは——革新町政ですけれども、100%というようなお話も伺っておるわけなんですけれども、大変に低い適用しているのは、これは一つは、こうした制度の趣旨が父母に理解がされていないということにあるんじゃないかというふうに思うんですが、そのために制度の趣旨を十分父母等に徹底を図るというようなことで、この制度の概要をチラシにして保護者あてに全員に配るというようなことを通してこの周知を図る。こういうことについて、お考えいかがですか。

○教育長（安田豊作君） この援助制度について、補助金をもらうことに

ついて父兄自体が自分は該当するんだけど、辞退したいというような風潮が当市にはかつてたくさんあったわけでございます。そういうことから、一般に知らせるというような考え方についてはいままでとらなかったわけです。そういうことで、申告制度で自分から申告して補助を決めていくというような方法についても、やはりそういうことで遠慮しておったわけですが、そういうことをすれば数がふえるのかと、申告によってそれを決めることには疑義があるんだというような指導もあるんで——ちなみにこれはちょっと古い統計ですが、千葉市はそういうチラシを配って自己申告制度をとっております。とっておりますけれども、その結果が、要保護認定率というのは1.49%です。そのときの館山が2.34%、県下の全部の市がここに調査してありますけれども、館山市の2.34%というのは、たしかこの中では5番目ぐらいに当たるわけで、ですから率の上からいくと高い率であるというように見ていいんじゃないかと、こういうように考えております。

○1番（神田守隆君） だいぶ古い資料だというようなお話ですが、私は具体的にこういう就学援助の問題でいろんな相談で何うケースがかなりあるんですけれども、実際にはほとんど知らないというようなのがむしろ実態なんです。

学校の先生のお話を伺っても、いまの世の中で、たとえば昔のように靴もはかない、いつもはだしで来る子供がいるだろうか。それから、つぎはぎの服しか着て来ないとか、そういう子供がいるとかいうようなことで、その家庭の経済状態というのも学校の先生が目から見て推察がつくと、しかしいまの現況というのは決してそうではないわけです。普通の見方ではなにもあの家が困っているというようなことはわからない。実際に家庭の中に入ればサラ金なんかで火の車だというケースはたくさんあるわけです。

したがって、学校の先生がそういう中で見て、そして学校の先生が申告するということも実際にはできない。やはりこういう制度があるんだということを父母に知らせるということを通して、そうして申請を受けて、それについて審査をするというような形をとっていくというのが、これは本来の制度の趣旨からいっても、現在の家庭の、社会の状況からいっても妥当じゃなかろうかというふうに思うんです。

ですから、この制度の概要を知らせても意味がないというようにいまの御答弁からうかがうんですけれども、いかがですか、そういう意味がないというように思われますか。

○教育長（安田豊作君） さっきの統計古いといっても56年ですから、一昨年の決算によるわけですが——知らせるということについては、時代も変わってきましたから、その問題については何らかの方法でもっと周知させるということについては考えてみたいと、こう思っておりますが——やはり学校の先生が認めるだけでは不十分だとおっしゃるんですが——もともと、この法ができたもとというのは、家庭の状態よりも、その子供が家庭が裕福であっても実際に教育を受ける過程で経済的に困っている子供を救おうということから発生した法律のように私は認識しておるわけでございます。したがって、学校で校長を中心とした検討委員会で十分検討した結果というようなものは尊重していくということが、やはりこの法の精神に即するものだ、というふうに考えております。

○1番（神田守隆君） 周知を図ることについて、時代も変わっているから検討いただけるというふうなことでよろしゅうございましょうか。

それで、具体的な問題として、ここには14項目にわたるそれぞれの該当事項が出ておるわけです。たとえば、私も実際こういう場面出くわすわけですが、地方税法で市町村民税の非課税あるいは減免こういうものに該当した場合には、そういうところの世帯の児童は就学援助の対象にしない、ということですが、実際に市の担当、たとえば市町村民税の減免を扱う担当の部署あるいは児童扶養手当の支給を行う部署そういったところで十分周知が徹底していないわけですね。

ですから、たとえそういうような減免の処置を受けたからといって、この就学援助の支給を必ずしも受けていない。それはそういう制度のあることを知らない、市の担当者もそういうことを知らない。ですから、たとえば減免の処置を受けたからといって、そういう家庭に対してお子さんがいればこういう制度がありますよということを実際にはやることのできないわけですね。そういう実態が行政の側にあるわけですから、十分に検討をして周知を図って、父母の方からも積極的にこうした問題についての考え方が持てるような条件ですね、実際にその申請を受けるか受けないかとい

うことは、親の考え方もあるでしょうから、だけれども、そういう制度があるんだよということだけは、せめて知らせておかなければ考えるにも考えられない、そういうことができないわけですから、そのことはぜひともお願いしたいと思うわけであります。いかがですか。

○教育長（安田豊作君） 周知の方法については検討させていただきたいと思います。検討してみたいと思います。

それから、いろいろの14項目の条件について、各課との連絡は十分にまわっております。その結果が補正でお願いしたような数になってきた。こういうふうにお取りいただきたいと思います。

○1番（神田守隆君） この項目を読みますと、14項目の中で比較的多いと思うのは国民年金の掛金の減免、これは法に基づく減免それから申請に基づく減免というケースが大変に多いケースだろうと思うんですが、このケースの人たちは国民年金の掛金の減免を受けた方、そういう方の中で小中学生の子供を持っていいる方がどれぐらいあって、それに対して周知がどのぐらい図られているのか、具体的ないま連絡を図っているということですから、お聞かせ願いたいと思います。

○教育長（安田豊作君） その資料は、いまここに持ち合わせておりませんけれども、途中での減免その他についてはすぐ連絡はとれますし、なお認定については3月末で行っておりますから、1年生は4月末で行うわけですから、減免その他の作業はその後で出てくるわけで翌年の扱い、こういうことになるわけでございます。

○1番（神田守隆君） 就学援助制度についてはぜひとも前進的な方向で、この趣旨が生かされることを通して——教育費の大変な父母負担というような状況の中で、教育費が家計を圧迫しているというようなことをできるだけ軽減を図っていく、そういうようなことでこの制度の趣旨を十分生かしていくように御要望をいたしまして、この問題については一応終わりたいと思います。

次に、新年度の予算編成に向けての問題ですが、先ほどのお話では使用料、手数料等の値上げの問題では受益者負担等を考慮し、財政事情等も考慮しながら、こういうような御答弁でございますけれども、現実的にいまの時点で値上げという問題で考えておる問題ありますか。

○市長（半澤良一君） 具体的にどの手数料あるいはどの料金をということとは考えておりませんけれども、全体的に見直したいと思います。

○1番（神田守隆君） 全体的に見直すということは大変なことで、政治用語で見直しというのは、ほとんど通常の場合値上げにつながりますから、そういうふうに受け取らざるを得ないんですが、この見直しというのは値上げを含んで見直す、私ども普通の常識的な言葉では使いますけれども、これは当然値上げになるんですか、全般的な値上げというふうに理解せざるを得ないと思うんですが、いかがですか。

○市長（半澤良一君） 検討の結果、据え置くものも出てくるかもしれませんが、値上げをするものも出てくるかもしれません。そういう意味で見直しをするということでございます。

○1番（神田守隆君） 現時点では、具体的にはどのという話はないようではありますが、汲み取り料金はやはりこれは据え置きですか、それとも見直しで値上げするかわからないかわからぬという——具体的な一つの事例ですけれども、お聞かせ願いたいと思います。

○市長（半澤良一君） 現在の段階では明確なお答えはできません。

○1番（神田守隆君） 次に、消防、道路などの寄附の問題ですが、これは年次的に地元負担の軽減を図ってきたと、この点については私もそのとおりだと思うんですが、すでに廃止の段階にもう立ち至っているんじゃないだろうか、こういうようなものも考えるわけで、新年度の中で廃止という考え方は打ち出せないのかどうか、お聞かせ願いたいと思います。

○市長（半澤良一君） 現在の段階では全面的な廃止は考えておりません。

○1番（神田守隆君） なかなか、この問題については、現時点の中では十分な答弁いただけないようでありますから、次の問題点に移りたいと思います。

平久里川及び汐入川河口に歩行、散策用の橋をかける提案についてであります。汐入川については9月の議会においても御要望をしたところで、県に引き続き要望していく、こういうような話でありますから、いいわけですが、平久里川については計画がないということですが、計画があればそれにこしたことはないと思うんですが、いま私が議論しているのはそういう段階の問題ではなくて、そういうことについての市長の考え方、

海岸線の活用、特に川崎には市民運動場もあります。最近では大変ジョギングだとかいうようなことで一つのブームもあるわけで、海岸線で毎朝ランニングする人たちも多く見受けられるわけです。そういうようなこと。それから、この市民運動場と八幡の海岸そうしたものが一体のものとして利用されていくことは、大変に市民運動場の点からいっても、その意味の大きなことじゃなかろうかという考え方を持つわけで、そうしたことも含めて、こうしたことが館山市にあっても検討されていいんじゃないかなと思うんですが、計画がないといっても、これから計画をつくるお考えがあるかどうか、それとも検討するお考えがあるかどうか、この点についてお聞かせ願いたいと思います。

○市長（半澤良一君） 海岸線整備については御意見賛成でございますので、それは進めていきたいと思いますが、平久里川に架橋をすることは考えておりません。

○1番（神田守隆君） 大変残念なことで、それはどうしてお考えいただけないんですか、その理由について。現時点でお考えいただけないということなのか、将来にわたってそういうことは本来無理だと、あるいはできないことだというようなお考えなのか、その辺について。

○市長（半澤良一君） 大変経費を要することでございますので、現時点では考えられない、遠い将来ということになりますと——何十年先ということになりますと、ちょっと御答弁できませんけれども、ここ数年の間では考えられないということでございます。

○1番（神田守隆君） ということは、財政上の問題というようなことが大きな理由のようですが、ということは、大体どれくらいの予算が見込まれるというふうな検討された前提のことだろうと思いますので、それは大体幾らぐらい。

○市長（半澤良一君） 数字的なことは検討はいたしませんけれども、橋そのものが大変金のかかることでございますので、現在の財政状況では計算する余地はないというように考えております。特に私いつも申し上げておるとおり、投資の効率ということを考えます。その投資の効率に値するだけの価値がある事業なのかどうかということをもまず考えたわけでございます。

○1番(神田守隆君) 全くそういう話では検討も何もなされないということで大変残念なことなのですが、私は積極的なこの点についての検討をして——大体投資効率の問題もあるでしょうし、そういう点からの検討も十分必要でしょうし、そういうこともあります。そういう資料をそろえる意思もないようでありますから、大変に残念なことであります。

私どもとしては、こうした海岸線の有機的な活用の上では大変重要なポイントになるところだろうというような理解をしておるわけで、そういうことでは市長の考えとは全く相入れないということを主張しておきたいと思ひます。

第4点の市営住宅の集会所施設についてであります、現在の公営住宅法のもとで、50戸以上集団的に住宅を建設しているというようなところでは規定があるわけですから、こういう点からいきますと、市内では何か所かそういうところが該当するんじゃないかならうかと思ひますが、いかがですか。

○経済部長(山田俊康君) 現在示されております、県の指導等でいただいておりますものは、原則として1団地で150戸以上ということで、現在の補助制度の中では一応150戸以上ということで指導等をいただいております。

なお、市長から答弁いたしましたように、笠名の集会所の問題につきましては、老朽住宅の建てかえのときにやはりこれを考えていきたいと考えております。他の住宅団地におきましても、建てかえのときに考えてまいりたいというふうに考えております。

○1番(神田守隆君) 150戸というのは大変重要な問題ですね。公営住宅法の中では50戸以上という規定がありますね。いかがですか。

○経済部長(山田俊康君) 現実の問題として、補助金等の対象になる最低の規模は、50戸で当然法律的には対象にしていいはずなのですが、現実の問題としては150戸以上で対象にしてくれということで指導を受けておるのが実情でございます。

○1番(神田守隆君) そうすると、国、県からの補助金の関係で市の単独の事業になるというふうに理解するわけですが、これは法の趣旨からいっても国、県がみずから公営住宅法を決めていながら、その基準を

下回る補助しか出さぬということは国、県に大変に非のある問題じゃなからうかと思うんですが、いかがですか。

◎経済部長（山田俊康君） 現実には御指摘のとおりだと思います。

なお、公営住宅に入居している方々の割り増し家賃を取らなければいけない人たちが3割を超えますと、やはり補助対象から除かれる。いろいろ細かい制約もございまして、市の単独事業ということが多くなってしまう。現状はそのようなことでございます。

◎1番（神田守隆君） 市長さんにお尋ねいたします。

この問題、私どもは公営住宅法という趣旨から当然50戸以上ということで、この問題についての検討するべしというふうに考えていたわけですが、同時にいま経済部長さんからの答弁で、実際には150戸以上にならないければ国、県からの助成がつかぬ。こういうことでありますが、大変矛盾したことです。これは市長は市長の立場において国、県に対してこれまで何か主張されたことがございますか。あればその経過、なければ今後のこの問題についての考え方をお聞かせ願いたいと思います。

◎市長（半澤良一君） この件について国や県に陳情したことはございません。おそらく50戸に1戸集会所をつくりなさいというのは理想でございまして、それに近づくためにまず150戸以上完成させて、それからだんだんに100戸以上とか、50戸以上に持っていくのが国の方針ではないかと思います。一遍に50戸にできないというのが現実ではないかと思います。ただ、少なくとも今後そういう方向に向かって国は努力しよう、そういうふうに考えているんじゃないかというふうに考えているわけでございます。

◎1番（神田守隆君） 市長は国、県に対して50戸以上——当市にとっては150戸以上といったら、現実にはどこにもないわけですね。150戸1団としては確かにどこにもない。ということは、館山市みたいな市営住宅は全く対象にならぬということですから、大変ゆゆしき問題だと思えますので、この問題について国、県等に市長として意見を申し述べるお考えがあるかどうか、そのことについてだけ最後に質問して終わります。

◎市長（半澤良一君） 御質問の趣旨はよくわかりますけれども、国全体としての住宅政策の中で考えなければいけない問題だと思いますので、よ

く実情を調査、把握してから対処したいと思います。

○議長（石井 正君） 以上で、1番議員君の質問を終わります。

次、4番議員日下君敏君御登壇願います。

（4番議員日下君敏君登壇）

○4番（日下君敏君） 私は、本定例会に提案されました議案の審議に先立ちまして、すでに通告してございます4点について質問をいたすものでございます。市御当局の率直なる御答弁を求め、以下順次質問に入ります。

質問の第1は、館山海岸の施設に関してでございます。第2は、いわゆるスポーツの里づくりの経緯並びに今後の問題についてであります。第3は、館山市道の路線認定について。そして第4は、排水関係につきまして市内2カ所に関し、その処置方をお聞きいたしたいと存ずるものでございます。

館山市は、御案内のとおり観光立市をその旗印といたしております。そして三方を海に囲まれております立地条件から、海岸線を中心とした観光資源はわが館山市にとりまして生命線に位するといっても過言ではございません。その中でも特に館山湾いわゆる鏡ヶ浦は観光館山の海の表玄関として昔からつとに有名なところでございます。

本質問は、鏡ヶ浦のうち館山海岸にしぼって幾つかの事項をお聞きいたしたいと存ずるものでございます。

館山海岸には、その中央部にいわゆる館山棧橋が沖に向かって突き出しております。同棧橋は、春は家族そろっての遊覧の場所、夏は市民の夕涼みに、秋はそぞろ歩く散策の場所、そして冬は太公望の絶好の釣り場として四季を通じて利用され、館山市民はもちろん広く内外の観光客に親しまれてきている名所でございます。

このように、かかる棧橋の利用度が高いにもかかわらず、棧橋そのものの実態はきわめて不備であることが指摘できます。まず棧橋の構造と申しますか、つくり方が雑でございます。単に材木を横に並べて置いてあるだけで、人が通りさえすればそれで事足れりといった感を与えるのでございます。また幅員が一定しておらず、中間部と先端に設置してございますストッパー状の工作物も仮設的であり、おざなりにつくってあるとしか言いようのないものであります。さらに棧橋の先端部を見ますと、そこは2つ

に分断されまして、最先端部の橋脚はくずれたコンクリートを露出したまま無惨な姿を海にさらしておるのでございます。

観光館山をうたい、美しい鏡ヶ浦をキャッチフレーズとする当市にとりまして、この光景はいささか矛盾したものと言わざるを得ません。久し振りに海を見ようとして海岸に来てみたら、この残骸では興ざめだと、これまで観光客から幾度となく指摘され、恥じ入ったことも再三ならずでございます。

棧橋からは遠く白亜の館山城を望み見ることができ、ここからの景色は大変風情のあるものでございます。しかるに棧橋の現実はどうでしょうか。何はともあれ、清潔で美しいことが観光の出発点といたしますと、この現実の原点に立ち返ってよく考えるべき問題だと思ふわけでございます。

なおまた、棧橋を渡ります前に導入路がついておりまして、この通路に接して下水の流末部分が敷設されております。これは土管でできておるわけでございますが、いま通ってみますと、土管が壊われて、そこからごみがあふれ詰って、汚水がわらわらと海にたれ流されております。

棧橋に行く人はどうしてもそこを通るわけでございまして、したがってたれ流しの現場はいやでも目に入ってしまう。人知れない山里ならいざしらず、このような衆目の場所で、このような光景が存在することは観光地のあるべき姿としてはなほだ寒心にたえないと存ずるわけでございます。

今様で申しますと「困ったもんだ」というところでございますが、目隠しをするなり、土管だけはとにかく補修するなり早急に何らかの手だてを講ずるべきではないかと存ずるところでございます。御当局の御所見を伺いたいと思います。

また、館山海岸には従前いわゆる無料休憩所が設置されておりましたが、現在は取り払われております。果たして今後どのように取り扱うのか、よりよい方向で御整備なさるのか、この点についても一言御見解を賜りたいと存じます。

館山の観光のより一層の整備、充実のために、とりあえず館山海岸を取り上げて幾つかの御質問をいたしました。市御当局の率直なお考えをお尋ねいたします。

次に、スポーツの里づくりについてお尋ねいたしたいと存じます。

いわゆる、スポーツの里づくりは、地域ぐるみの観光地づくりを目的に本年度より3カ年計画で推進されている事業でありますことは、すでに御案内のとおりでございます。これまでの単なる見る観光、夏型集中観光から脱却し、スポーツを通じて地域の発展に寄与し、あわせて民間宿泊業者の利益にもつなごうという一石二鳥はおろか一石三鳥ともいふべき新しい発想の観光事業と承っております。

その意味で、この完成のあかつきには、その業績は刮目して期して待つべきものがあると言えるでございましょう。新聞報道等によりますと、事業主体も備わり工事も着工されたよしであります。

しかしながら、仄聞するところによりますと、事業計画が当初のものと比較し少し変更された、また開始時期もずれ込むようになったやに伝え聞いております。スポーツの里づくりは3カ年で100面になんなんとするテニスコートをつくらんとする大変な事業であります。このような大事業は、計画が当初のものと変更されることもまたやむを得ない場合があろうと存じます。

しかし、一方では、この事業は千葉県及び館山市から大幅な助成を受けて進捗するものでありますから、われわれはその成り行きについて十分注視する必要があるかと存じます。

そこで御質問いたします。スポーツの里づくりについて、当初の計画と現時点とで変更になった主な点はどこか、事業主体はどこか、施設の規模はどの程度か、事業費の額、内訳、その採算制等々に関し簡潔にお答え願います。

第3点目は、市道の路線認定についてでございます。具体的に申し上げますと、いわゆる私道について、その所有者から寄附の申し出がある際、市はこれを受け入れるかどうかということでございます。

現在、館山市には不動産業者等が開発した造成地が所々にございますが、そこにある私道については利用者である住民が私的に管理いたしております。これら私道について館山市に対し提供することができるのかどうかということでございます。

私道の管理者の中には、自分たちで持っていては仕方がないから、この

際、市に寄附した上で館山市道にしてもらいたいと考えている人が相当数おるようでございます。このような場合、館山市はすべての申し込みを受け取るのか、それとも全く受け取らないのか、あるいはまた一定のものについては認めるということをお聞きいたしたい。こういうことでございます。もし、この件に関し一定の基準なり、内規なりがございましたら、お示し願いたいと存ずるところでございます。と同時に、過去1、2年間に館山市道としてもらい受けた事例がございましたならば、これこれこういう事由から受け取ったという具体的に例をお示し願いたい。そういただければ幸いです。

最後は、排水の問題でございます。本質問では、市内2カ所ほどの排水関係について御質問いたしたいと存じます。

その1つは、館山小学校周辺でございます。同小学校の東側つまり城山公園側は近年宅地化が進んだ結果、従前は空地が多かったところでありましたものが、いまでは住宅の建ち並ぶ新興住宅地に変遷してきております。このために新興住宅地につきものと申しますか、新興地にお定まりの排水問題に悩まされているわけであります。

しかし、一般論で申しますと、この排水問題は、一概に市御当局の不備を責め立てるわけにはまいらないというところがあるように思います。住宅地ができます場合、まず側溝があって後から宅地ができるわけでございます。業者等が宅地をつくり、側溝をつけ、これを既設の下水路に接続させるわけでございますが、この場合、既設側溝が大きくて許容量が十分ならば問題はございませんが、通常の場合はその反対でございます。

さあ、宅地ができた。側溝をつないだら、これが狭い。何とかしてほしい。これは切実な問題でございます。切実ではありますが、すべてをおいそれと受け入れるには時間と費用がない。こういった当局の見解、立場もそれなりに理解でき得るところではございます。

しかし、現実問題として、新しい住宅地が今後もでき続けることは間違いございません。そして排水問題がわが館山市にとりましてきわめて立ち遅れた部面であるとの認識に立ちまして、これが解決に今後より一層積極的に取り組んでいただくためにあえて御質問いたすわけでございます。

館山小学校周辺岡沼市営住宅東側の道路は、片側に小さな既設側溝がご

ございますが、さきに申し述べましたような事情により、これでは当地域の下水を受けきれないという状態に立ち至っております。大雨のときならまだしも、ちょっとした雨が降っただけで側溝はあふれ、雨水は民家に浸入するのが実情でございます。これら地域の排水問題をいかに御処置願えるのか、御所見をお聞きいたしたいと思ひます。

いま1点は、楠見排水路の一部でございます。具体的には電電公社敷地に接する都市下水路でございます。当該部分は館山市道でございます。道路の幅員が約2 m 2 0から2 m 3 0と狭い上、曲線を描いており、加えて側溝が古く、これまでしばしば路肩がくずれるなどいたしております。側溝の老朽化は目に余るものがありまして、数カ所にわたりまして現在木材を渡して倒壊を防いでおりますけれども、正直申し上げまして危険この上ないというところでございます。

また、この道路は、館山市立第二中学校への通行路になっており、学生諸君の通行量もかなりのものがございます。さらには付近の幼児たちが側溝の反対側の土手部分に飛びはねまして遊びまして、側溝が1 mほど広いのにふたがかかっておりませんものですから、その意味でも危険な状態に置かれております。当該下水路について改良工事等のお考えがないかどうか、御意見を承りたいと存じます。

以上、数点にわたり御質問申し上げる次第でございます。なお、御答弁によりまして再質問させていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 日下議員の御質問にお答えをいたします。

質問の大きな第1点、館山海岸の施設について関連して小さな第1点は館山棧橋の問題でございますが、館山棧橋につきましては昭和56年度改修をいたしました。その後利用状況を調査いたしましたが、安全確保の上から地覆い等の設置について検討をしていきたいと考えております。なお、先端の腐食した橋脚の取り除き工事につきましては、多額の経費を必要としますので、現在検討中でございます。

次に、棧橋脇の道路側溝につきましては、本年度内に補修をしたいと考えております。

小さな第2点、休憩所についてでございますが、館山海岸の休憩所は昭

和27年に建てられ、その後監視所及び脱衣所として昭和50年に改築するとともにひさしを併設し、このひさし部分を休憩所とし、現在に至っております。去る11月18日の強風により休憩所部分が被害を受けておりますが、今後は海水浴客の利用状況並びに位置等を検討しながら対処してまいりたいと存じます。

大きな第2点、スポーツの里づくりの経過と将来についての御質問でございますが、今回、館山観光事業協同組合が実施する館山スポーツの里テニスコート建設事業につきましては、当初の計画では本年6月に組合を設立し、引き続き農業振興地域整備計画の変更手続及び農地法に基づく農地転用手続並びに都市計画法による開発行為の手続等を8月までに終了させ、9月に工事着工、59年2月にオープンの計画でありましたが、これら一連の許可が遅れましたため、11月28日工事入札が行われたわけでございます。

事業主体は、市内宿泊業者33名により設立されました館山観光事業協同組合で、施設の概要といたしましては敷地面積3万1168㎡、テニスコート31面、管理棟平屋建て229㎡、駐車台数50台の駐車場でございます。事業費の内訳といたしましては造成土工事7000万円、コート工事7600万円、建物等施設工事3700万円、総額1億8300万円、オープンは4月後半の予定でございます。

この施設は、組合が自主的に運営、管理を行うものでありまして、事業の採算制について組合では年間100日稼働、総入り込み客数2万4000余人を目標としておりますが、この目標を達成することができれば十分採算のとれる運営が可能であると考えております。さらに組合の企業努力及び関係機関の宣伝協力によっては年間150日稼働も期待できるものと考えております。

次に大きな第3点、市道の路線認定についてでございますが、第1点は幅員4m以上のもの。2つ目には起点と終点が少なくとも幅員5m以上の国道、県道あるいは市道に接していること。3つ目に公共施設等があり、そのために利用されているもの。4つ目に家屋が連檐し、また集落を結ぶなど利用度の高い幹線道路であることを認定条件としております。

なお、市道として受け入れた事例でございますが、市道藤原佐野線で、

県道館山白浜線より京成分譲地内を経て市道佐野線に通ずる道路でございます。受け入れた理由としては幅員4 m以上であること。2つ目として集落を結ぶ道路であること。3つ目として起点が県道であるためでございます。

また、市道桜ヶ丘1号、2号線でございますが、那古地内の国道127号線と市道260号線を結ぶ道路でございます。受け入れた理由として幅員4 m以上であること。2つ目に起点が国道に接していること。3つ目に道路周辺に家屋が連檐し、利用度が高い道路であることでございます。

大きな第4点、排水路問題でございますが、その小さな1点、館山小学校周辺の側溝の問題でございますが、岡沼市営住宅東側の側溝については現場を調査済みでございますので、順次整備をいたしたいと考えております。

次に小さな第2点、館山電電公社横の都市下水路の件でございますが、この排水路は擁壁、水路底等が傷み、道路にもその影響があらわれてきておりますので、59年度において測量調査を計画いたしております。

以上、答弁を終わります。

○4番（日下君敏君） ただいまの市長の御答弁で大略わかりましたのでございますが、なお1、2点御質問いたしたいと存じます。

第3点の市道の路線認定につきましては御答弁を了解いたします。よくわかりました。

第4点の排水問題につきましても大略了解いたすところでございますが、なお1、2点お聞きいたしたいと存じます。館山小学校周辺のところでございますが、先ほども申し上げましたように大変住宅地化が激しくなっているところでございます。ひとつなにはふんの早急なる工事方をお願いいたす次第でございますが、それと関連いたしまして、館山小学校に隣接をいたしましてただいま館山幼稚園の建設が行われております。入り口が館山小学校の校庭部分を通して——現在あそこに小学校と幼稚園の間に4 mほどの排水があります。あそこを渡って行くこととなりますが、幼稚園の園児でございますので、排水が狭いとは申しながら、あそこに落ちる危険性もでございます。そういったことにつきまして、フェンス等々のものが張れるのかどうかということが第1点。

それと関連いたしまして、館山小学校自体の排水にくっついているところもフェンスがございません。土手がございまして、木があるわけですが、その辺につきましても安全上——高学年の方は大丈夫といたしましても、小学校1、2年の方が落ちて——あそこは一部田んぼが埋め立てられました関係で流量が多いものですから、危険でございますので、フェンス等のお考えがあるかどうかということが1点。

それともう1点、小学校の城山寄りのところに先ほど排水で聞きました道路がございます。小学校との間の道路にガードレールがついておりますが、角から30mほどはついておりません。これは私も見に行きまして——館山小学校は校庭が狭うございますから、校舎の方で遊んでいて、現に私が見ておりますとボールが飛んできて大変危険でございます。ガードレールについて設置をする必要があるんじゃないかと思うのでございますが、このフェンスとガードレールの2点について簡単にお聞きいたしたいと思っております。

○教育長（安田豊作君） 第1の幼稚園に接続するところについて、現在幼稚園が工事中ですが、でき上がった時点で安全にしたいと思っております。

なお、西側の水路に柵がないわけですが、これは現在学校側といままで話し合っておったんですが、現在つくっております。

それから、東側の道路については高いところにガードレールをつけておるんですが、低い方はないわけですが、これについてはまた検討してみたいと思いますが、学校としてはつけたいんですが、学校としては道が高いため、どうしても道側につけなければいけないということになっております。また話し合ってみたいと思っております。

○4番（日下君敏君） ガードレールの問題ですが、道の方につけてもよろしいんじゃないかというふうに思うんですが、いずれにしてもつける方向で御検討願いたいと思います。

次に、館山横橋の問題でございますが、市長の御答弁を承りまして、先端については検討していくということでございますが、実はこの問題につきましては再三にわたりまして館山の連合会長、副会長でございます松本さん等々が、やはり観光上からイメージダウンだということで陳情が重ね

られておるところだと思えます。事実やっておるわけでございます。

また、57年3月の議会におきまして同僚の安西益男議員からもこの問題について質問をしております。私もここに抜粋を持っておりますが、これを見ますと、市長さんの方が早急に現場を見た上で対処するということをお答えしております。そういうことから、これは確実に見ていただいたと思うわけでございますが、検討するといひましても、その後何らし ておらないわけでございます。一体残骸そのものをそのまま放置しておくのか、それとも取り払うのか。あるいはまたあの辺はいい魚礁だそうでございますして、釣る人にとりましては、昔はイセエビなんかいたんで結構いい場所ですよというようなことで、その分を再利用のようなかっこうで浮島のようにするのか。検討中ではどの程度の検討なのかわかりませんものですから、いまして少し具体的にお聞きしたいと思えます。

○経済部長（山田俊康君） 撤去の問題につきましても検討いたしました。市長からお答えいたしましたように多額の経費を必要とする、撤去するだけでも500万以上かかるであろうというようなこともございまして、これを実際に実施する場合にはクレーン船等を使わなければうまくいかない、そういったこと等も含めまして現在検討しているわけでございます。

○4番（日下君敏君） どの程度の費用がかかりますか。

○経済部長（山田俊康君） 撤去そのものだけでクレーン船を使ってやる場合でも、館山港内にクレーン船が他の事業等で曳航されてきたときを利用して、やはり500万近くかかるんじゃないだろうか、このように感じております。

○4番（日下君敏君） 大変お金のかかることでございますので、いま直ちにというわけにまいらぬでしょうが、何にしましても、あそこから館山海岸に来る人はだれも見erわけであります。どうもあの残骸では——南方に置かれております、南方に行きますとわが日本軍の残骸が海にさらされているそうですが——どうも観光館山のイメージから見ますと、やっぱりいただけないんだということでございます。クレーン船が来るということになると、いつ来るかわからぬということでございますので——この問題はわりとしつこく御質問させていただくということになろうかと思えます。この棧橋の問題ですが、この所有権は館山市にあるということでよろしい

でしょうか。

○経済部長（山田俊康君） 御指摘のとおり、館山市の財産でございます。

○4番（日下君敏君） 46年当時に台風で壊されて、それを復旧いたすというときに、相当壊れたので直そうと、一体館山市で直すのか、それともこの所有が千葉県にあるのかということでいろいろ問題になった。千葉県の方に聞いたらば、議事録等々を見ると所有権が桟橋は県のものであるというようなことがあったんだけど、市の方が公有水面を埋め立てる権利を獲得する上でも市の方にしておいた方がよろしいというようなことで、市の所有権ということにした上で原状に復したというふうにお聞きしているわけでございます。もしそれならそれでもよろしいんですが、せっかく直すには県の方が予算持っているわけでございますから、その際に県に直してもらって、もうちょっといまのようなふざまじゃないかっこうにしてもらった方がよろしかったんではないかと思いますが、そういう事実があったんでございますか。

○経済部長（山田俊康君） 担当の経済部長といたしましては、その事実は聞いておりません。

○4番（日下君敏君） 館山市ということでございますならば、それで大変結構なことだと思うわけでございますが、何にしても観光上から見ますと、どうもあまりいい景色ではございませんもので、ひとつよろしく願いたいところでございます。

また、海岸周辺を見ましても、私、館山に在住させていただいておりますが、北条海岸の方がどうもりっぱでございまして、北条桟橋などは両サイド脇がございまして、どうも館山桟橋は単に材木があるだけで、ストッパーなんかも何のためにあのストッパーがつけてあるのかわからないことでございます。官尊民卑ということではいいですと北条尊館山卑、こういうひが目を持って言うということになりますので、館山海岸についてもよろしく願いたいところでございます。

無料休憩所につきましては、ひとつ前向きに検討していただくということでございますので、その時期がまいりましたならば、これについてお聞きいたしたい。こう思います。

私、いままでの御質問が、この桟橋を観光のものである、観光的のものなん

だという立場から御質問いたし——私そういうことだろうと思っておるわけでございますが、この棧橋の行政組織上の管理と申しますか、それはどちらがやっておるのでございましょうか。

○経済部長（山田俊康君） 市役所内におきましては経済部の所管でございます。現在、それを課の方では建設課所管ということで管理しております。

○4番（日下君敏君） ですから、建設課というのは河川、港湾及び排水の調査、設計及び工事施行という項目から、この棧橋を管理いたしておる。こういうふうに私は承っておりますが、そうすると、あの棧橋が道路の延長であるという感じに建設課はなるんだと思うんです。道路の延長であるから、とりあえず歩ければよろしいということで、観光的な面が欠けるんじゃないかと思うわけでございます。ですから、いますぐこの建設課から観光課の方に移せということとはできないでしょうが、ひとつ観光面から十分検討する必要があるかと思うわけでございます。単に歩ければいいということではございません。われわれ館山市民は観光施設のためにあるんじゃないかなと、あれが道路の延長であるというふうには承っておらないんじゃないかと思うわけでございますので、その辺の配慮をお願いいたしたいと思いますが、どうでしょうか。

○経済部長（山田俊康君） 経済部担当でございます。たまたま建設課ということでありまして、経済部の中には商工観光課も入っております。そのような御懸念のないように今後も考えてまいりたいと思います。

○4番（日下君敏君） この建設課、観光課の上に経済部があるということでございますので、ひとつ経済部で、広い立場で御検討願いたいと存じます。

次に、スポーツの里づくりについてお聞きいたします。このスポーツの里づくりはすでに本年度予算で計上され、当議会におきましても十分議論をし尽くした上で実行に移しているものでございますから、いまさらとやかく言う筋合いのものではございません。

そこでもう一度、復習といえますか、確認させていただきますと、このスポーツの里づくりは千葉県が行いました第2次新総合5カ年に基づいて地域観光振興事業の推進ということから地域の事業指定を受け、館山市も

観光振興基本計画策定協議会というものを設けまして——これには市御当局も当然その委員として入っている、そういった中で、このスポーツの里がよろしいんじゃないかということになり、市も観光政策上積極的な姿勢になって、このスポーツの里づくりに入ったというふうに理解してよろしいでしょうか。

○経済部長（山田俊康君） 御指摘のとおりでございます。昭和56年に県の指定を受けまして、そうして地域観光振興計画を56、57、2カ年にわたりまして策定いたしました。58年度から事業実施しております。観光振興基本計画の中で提言されたものがスポーツの里づくり、そして当面やるべきこととしてこれらが提言されましたので、それを事業化しているというのが事実でございます。

○4番（日下君敏君） そこで、館山市が観光政策上大変よろしいということでスポーツの里をやろう。スポーツの里をやるについては事業協同組合なる第三セクターと申しますか、そういうものをつくってやったらよろしかろうということで、市の行政に基づいて行ったという理解でよろしいと思えますけれども、この問題につきましては、さきの9月議会でやはり田沢議員がそのようなことを聞いて、そういうことであるというふうにお答えをいただいております。ということは、館山市も館山観光事業協同組合と申しますか、これについては十分な行政及び行政指導を行うんだということでございますか。その1点について。

○経済部長（山田俊康君） 当然、十分な指導を行っていきます。

○4番（日下君敏君） 指導を行うと同時に、その事業組合が自主的に運営していくんだということだと思っておりますのでございますが、先ほどの御答弁では大体100日稼働をいたして何とか2万4000でしたか、入り込みがあれば採算がとれるということでございます。優秀な方々が立案し、優秀な人間が経営するわけですから、そのとおりだと思うんですが、もし万が一、万が一ですよ、この採算割れが続いてどうも立ち行かないという事態に至る場合に、この責任というとおかしいんですが、やはり事業協同組合が責任をとるのか、それとも市もそれに入っていくのか、その辺の関係はどうでございましょうか。

○経済部長（山田俊康君） 万が一という仮定の問題でございますので、

私ども担当といたしましては、そのようなことは絶対起こり得ないと、またそういう方向で指導あるいは協力等をいただいていくということでございます。

○4番(日下君敏君) と申しますのは、大幅な補助金ほぼ半額を補助金でやるわけでございますから、——同じ補助金でやった問題で自然休養村の例がございまして、これについてはどうも当初の計画よろしくないのです、市の方も農協でございますか、それについて補助をいたそうという事態に立ち至っているというふうに聞くわけですが、このテニスの問題も館山市からも相当の税金が行っておるわけでございますので、そういったことで、もし立ち行かないということが——仮定の問題でございますから、答えにくいとは思いますが、そういったことで館山市がどの程度入るのか、あるいは自主的に事業協同組合がそれを整理するのか、その辺をお聞きいたしたいと思ったわけでございます。

その採算の問題ですけれども、ただいま伺いますと、年稼働100日を目標で、この採算制の計算がしてあると、こういうことでございますが、この100日というのはどこから出てきた数字ですか。

○経済部長(山田俊康君) 大体いままで他の先進地、県内ですと白子町等には相当のコートがございます。最も効率的な運営ということで年間200日前後まで効率的に運営ができた年もあるということで聞いております。それから白子町でテニスコートを始めたときには、やはり120～130日しか効率的な運営は初年度においてはできなかったということも聞いております。やはりこれらの計画を立てるにあたりましては安全第一ということで、事業協同組合としては、計画の中では100日稼働ということで立てたものだと思います。

○4番(日下君敏君) そういう御当局の調査が正しかろうと思いますが、私が調査いたしましたところによりますと、白子町が100日から120、全盛期になってもうちょっとよろしかろうというふうに聞くわけでございます。館山の場合はどうかと、白子の方は全国的に有名になっております。館山の方はまだまだこれからということでございますので、100日を切って計算を掛けた方が、ただいま経済部長がおっしゃった安全第一という面からは、その方がよろしいんじゃないかなと、こう思うわけございま

す。現実には100日ではなくて、60から70この程度で掛けた方がいいような気がいたすわけでございますが、それはこれから事業協同組合が実際やっていくわけでございますから、それはそれでよろしいと思います。

コートの問題ですが、当初クレートコートでやるんだということでやったわけでございますが、今度変更になりましてグリーンサンドを11面使うというふうになったように聞いておりますが、なぜ変更になったんですか、簡単にお聞きいたしたいんですが。

○経済部長（山田俊康君） 事業協同組合の方々が先進地域をいろいろと視察されました結果、やはりグリーンサンドを採用した方がいいということで、このようになりました。

○4番（日下君敏君） わかりました。時間の関係もでございますので。

それと私、経済委員会に本議会では属させていただいておりますものですから、ひとつ簡単に入札等々についてお聞きいたしたいんですが、先ほど入札が11月28日に行われたということでございます。落札した業者はどこでしょうか。

○経済部長（山田俊康君） 三菱建設、長谷川パイプ施設、渡辺建設の共同企業体が落札しております。

○4番（日下君敏君） 共同企業体というのはジョイント形式ということだろうと思うんですが、今後——これはそういう協同組合とはちょっと離れまして、市御当局がこういったジョイント形式をとっていくのか、とっていくとなると、そのジョイントのメリットはどうか、デメリットはどうかということを簡単にお聞きいたしたい。あるいはまた一括でやるのか、分割でやるのか、簡単に御答弁願いたいと思います。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 共同企業体についてお答えいたします。

お尋ねのように、建設工事につきましては量の増大とか大型、特殊化そういうことで、いろいろそのほかに施行能力、中小企業と大企業の能力差がある、そういうことで受注機会を与える、そういうことにかんがみましてジョイントベンチャー方式ができております。

それで、メリットなんですが、おおよそ考えておりますのは、たとえば信用力、融資力の増大等が考えられます。危険負担の分散、技術力の拡充強化、それから工事施行における確実性の向上といえますか、それらが具

体的には主なメリットだと思います。ただ、具体的にデメリットは十分検討してございませんが、当市の場合は限られた企業数、その場合に一つの審査基準がございまして、お金の工事量によりまして10社なり、20社なりを予定する工事がございます。その場合に対相手となります市内の業者がいるかどうか、そういうデメリットが考えられます。

○4番（日下君敏君） わかりました。

何にしましても、このスポーツの里づくりはいままでになかった内陸観光を促進させるということで大変な事業だろうと思うわけでございます。これがどんどん発展しますと、これからも観光客が来て館山市の観光もよくなるということだと思いますが、この問題に関して見ますと、やはり市御当局がこういうことがよろしいということで始めて、それに観光業者が乗った。しかし、2億からの資金のうちの1億は補助金であるとしても、1億は民間業者が負うわけでございます。そうすると、返済するのは業者が自分のふところから返済するものでございますから大変でございます。全面的に皆さんも協力しているだろうとは思いますが、一部の中にはどうも大丈夫かなという懸念を抱いておるようなこともあろうかと思っておりますので、ひとつこの問題につきまして市の方も十分バックアップをしていただいて、よろしく願いいたしまして私の質問を終わらせていただきます。

○議長（石井 正君） 以上で、4番議員君の質問を終わります。

次、2番議員田沢勝信君御登壇願います。

（2番議員田沢勝信君登壇）

○2番（田沢勝信君） 私は、さきに通告いたしました2点について御質問申し上げます。

まず第1点は、株式会社安房自然村井手口 正社長の館山市民9名の畑地及び山林の無断使用並びに建築基準法違反行為、農地法違反行為に関しての館山市行政の対応についてお伺いしようとするものであります。

すでに、館山市農業委員会によって現地調査あるいは当事者双方からの事情聴取もされたようでありますが、本事件の概要と経緯を明らかにし、確認の上で細部の御質問をいたします。

さて、本事件の概要であります、株式会社安房自然村社長井手口 正氏は、昭和52年頃から黒川国治氏所有にかかる館山市布良861番地の

17 所在の山林上に地権者に無断で幅員 6 m、長さ 100 m にわたる未舗装道路を敷設し、黒川国治氏所有の土地を侵奪しております。

また、同年頃から小谷明子氏所有にかかる館山市布良 899 番地所在の畑地を約 90 m<sup>2</sup> にわたり削り取るなどして破壊し、同人所有にかかる 640 番地 22 所在の山林上に地権者にこれまた無断で幅員 80 cm、長さ 26 m にわたる未舗装道路を敷設し、小谷明子氏所有の土地を侵奪しております。

昭和 54 年には、青木光江氏所有にかかる館山市布良 555 番地の 11 所在の山林上に地権者に無断でおのおの幅員 2 m、長さ 103 m にわたる未舗装道路 2 本を敷設し、また青木光江氏所有にかかる 640 番地の 34 所在の山林上に無断で幅員 1.3 m、長さ 80 cm にわたる未舗装道路を敷設し、同人所有にかかる 640 番地の所在の山林上に地権者に無断で幅員 1 m、長さ 70 m にわたる舗装道路、一部未舗装道路を敷設し、青木光江氏所有の土地を侵奪しております。

同じく、昭和 54 年頃より小谷竹松氏所有にかかる館山市布良 636 番地所在の畑地に地権者に無断で幅員 2 m、長さ 10 m にわたり未舗装道路を敷設し、また小谷俊夫氏所有にかかる館山市布良 817 番地所在の畑地上に地権者に無断で幅員 80 cm の未舗装道路を敷設し、小谷俊夫氏所有にかかる 561 番地所在の畑地上に無断で幅員 5 m の未舗装道路を敷設し、小谷竹松氏及び小谷俊夫氏の土地を侵奪したままであります。

さらに、株式会社安房自然村は、昭和 55 年に至り小谷寿男氏所有にかかる館山市布良 692 番地、同 682 番地、同 690 番地所在の畑地上に地権者に無断で幅員 2 m、長さ 39 m にわたる道路、一部コンクリート舗装を敷設し、同人所有の 672 番地の 13 の山林では山肌を無断で幅員 3 m、長さ 80 m にわたって削り取るなどして破壊し、さらには同人所有の 653 番地、同 655 番地所在の畑地上に無断で幅員 2 m の舗装道路、コンクリートを敷設し、同 640 番の 13 所在の山林上にも無断で幅員 80 cm、長さ 16 m にわたる未舗装道路を敷設し、小谷寿男氏所有の土地を不当に侵奪しております。

同じ昭和 55 年には、さらに黒川三之助氏所有にかかる館山市布良 654 番地、同 656 番地所在の畑地に地権者に無断で幅員 1 m、長さ 49 m

にわたるコンクリートの舗装道路を敷設し、同 640 番の 12 所在の山林上に無断で幅員 80 cm、長さ 39 m にわたって未舗装道路を敷設して黒川三之助氏所有の土地をこれまた不当、不法に侵奪したままであります。

さらに、株式会社安房自然村は、昭和 58 年 4 月頃より小谷秀雄氏所有にかかる館山市布良 549 番地所在の畑地 56 m<sup>2</sup> 上に地権者に無断でゴルフ練習場を造設し、小谷秀雄氏所有にかかる 524 番地所在の畑地 221 m<sup>2</sup> 上に無断でゴルフ練習場に付属する打ち込み場の建物 1 棟を建設し、また小谷明子氏所有にかかる 543 番地所在の畑地 251 m<sup>2</sup> にも無断でゴルフ練習場を造設し、さらに黒川龍太郎氏所有にかかる 552 番地所在の畑地 247 m<sup>2</sup> 上に地権者に全く無断でゴルフ練習場を建設し、なおかつ同練習場の整理棟 1 棟を建設するなどして、もって小谷秀雄氏所有の土地 56 m<sup>2</sup>、小谷明子氏所有の土地 251 m<sup>2</sup>、黒川龍太郎氏所有の土地 247 m<sup>2</sup> を不法に侵奪し続けております。

さらに、つけ加えて申し上げますが、御承知のとおり株式会社安房自然村井手口 正は、いま申し上げた館山市民 9 名の土地を不法に侵奪しているばかりでなく、農地法第 4 条に定められた農地転用申請すら怠り、建築基準法第 6 条 1 項 4 号で定められた建築確認申請すら行わず今日まで不法行為を続け、しかも株式会社として営業を続けるばかりか、被害者の土地に通ずる安房自然村への出入りを禁ずる立て看板等を表示するに至っております。

以上が、本事件の概要であります。次に本事件に至る経緯の概要を申し上げます。

株式会社安房自然村井手口 正社長は、昭和 49 年頃から葵開発工事株式会社代表取締役井手口 正が買収を始めた館山市布良地区の山林、畑地上などを利用して、南房総国定公園内の景勝地にハイキングコース、宿泊施設などをつくり、安房自然村として一般に公開しております。

ところで、安房自然村のオープンに伴い、前記地権者の所有する土地が自然村の拡張に必要とされたためか、昭和 50 年頃前記 9 名の地権者のうち何人かの者に、その所有土地を自然村に売却してほしい旨話を持ち出され、現に株式会社安房自然村の関係者が訪問するなどしておりますが、地権者はその要望を拒絶し、以後交渉は一切なかったというふうに聞いてお

ります。

しかしながら、昭和58年に至り、地権者小谷秀雄氏所有の畑地に大型ブルドーザーが入り込んで、その土地を削るなどして大々的な工事を行っていることを発見し、また同株式会社安房自然村のリゾートマンション計画の同意書を求められ現地を訪れた地権者は、別の土地がすでにさまざまな形で侵奪されていることを発見しております。

地権者らは、昭和58年4月以来株式会社安房自然村に不動産侵奪、農地法違反、建築基準法違反行為を指摘し、抗議をし、原状回復を求めて話し合いも進めてまいったようですが、地権者の主張は株式会社安房自然村の受け入れるものとはならず、今日まで悪質ともいえる株式会社安房自然村の不動産の不法侵奪行為あるいは建築基準法違反行為または農地法違反行為が続けられているのが現状かと思えます。

この間、昭和58年8月には新聞等のマスコミにより、安房自然村のこれらの行為が建築基準法違反行為あるいは農地法違反行為と報道されるに及び、館山市農業委員会が調査に乗り出し現地調査、当事者双方から事情を聴取され、指導もされたように伺っております。

地権者等は、不法行為の是正に応じない株式会社安房自然村の誠意のない態度にやむなく昭和58年10月23日に館山警察署に告訴するに至っております。

また、当農業委員会も昭和58年11月1日付で千葉県に対し、安房自然村の農地違反転用報告書を提出されております。

以上が、株式会社安房自然村の不動産侵奪行為及び建築基準法違反行為並びに農地法違反行為の概要と経過のあらましであります。

そこで、御質問申し上げます。まず第1点に、いま私が申し上げた安房自然村の館山市民9名の地権者の方々の不動産を侵奪し、また建築基準法違反行為、農地法違反行為の概要と経過について、このとおりであると御確認できるか。同じく、このような不法行為についてどのような所見をお持ちか、お伺いいたします。

第2に、ゴルフ練習場打ち込み場の建物1棟並びに同練習場の整理棟の建築に対し、安房自然村からは建築確認申請も出ていないようではありますが、このことに関しこれまでの指導がありましたら、どのような指導であ

ったのか。

第3に、さきに申し上げたとおり、地権者の方々は安房自然村の誠意のない態度に対し、不法行為として館山警察署に告訴しております。その後、館山市農業委員会より農地違反転用報告書が県に提出されております。この報告書を見てみますと、これまでの指導として「地権者と円満解決の上、転用申請手続をとるよう指導した」とあり、かつ、意見として「同上」となっております。地権者の方々は農地法違反としても告発しているわけですが、館山市農業委員会の報告書中の意見は、違反行為を追認し続けていくような印象を与えているのではないかと。関連して、館山市農業委員会の意見としては原状回復の必要あり、そのような認識に立っていないのか。

以上が、私の第1点目の質問であります。

引き続きまして、大きな第2点の御質問をいたします。館山市職員の給与引き上げについて所見をお伺いしようとするものであります。

御承知のとおり、人事院は8月5日に58年度の国家公務員の給与改定について、一般職で定昇を除いて平均6.4%、額にして1万5230円を4月にさかのぼって引き上げるよう内閣と国会に対して勧告をいたしました。その際、人事院総裁は、昨年度の凍結の異常事態を踏まえ、人勧制度は国家公務員の労働基本権制約の代償処置であり、ほとんど唯一の給与改善の手段であることを強調した上で、①全職員の給与改定が実施されないのは士気、生活の影響が重大で深く憂慮する。②同じ身分の公企体の職員の昨年の給与は仲裁裁定の実施で改定されており、不均衡が生じているなどを例年になく特に指摘し、すみやかな完全実施を強く要請したと言われております。

人事院勧告は、春闘終了後に民間の給与、ボーナス、諸手当について調査し、公務員の給与水準に比較して官民の格差を是正するものであります。

また、昨年の日本政府の人勧凍結という態度には国際的にも批判が広がり、今年2月のILO理事会は、人勧凍結を遺憾であるとし、労働組合権の制約に対する一つの代償処置が当該公務員に保障されることを強く希望するという勧告を採決しているわけでありまして。

また、中曽根首相も、すでに3月の衆議院予算委員会では与野党間の話

し合いも、人勧については最大限尊重するということで、その線に沿ってこれを守っていくと答弁しております。しかしながら、さきに開催された国会では人事院勧告を無視し、ILO勧告すら無視し、しかも俸給表すら無視し、アップ率にして2%の給与改定法を自民党単独で強行採決してしまいました。当市におきましても年末の、年の瀬が迫ったいまでも、去年の市職員の給与凍結に引き続いて83年度分の給与も引き上げられないままになっております。

そこで、御質問申し上げますが、さきの6月定例会で、私どもの市職員の給与引き上げについての質問に対する中で、人事院勧告は尊重することに異存はないが、国、県の動向を見守った中で対応していく旨市長の答弁がされておりますが、83年度の市職員の給与引き上げについてどのように考えておられるのか、御質問申し上げます。

以上、大きく2点にわたり御質問申し上げましたが、市の明確な答弁をお願いし、答弁によりまして再質問させていただきます。

○議長（石井 正君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開いたします。

午前11時55分 休憩

午後 1時01分 再開

○議長（石井 正君） 午後の出席議員数24名、休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁願います。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 田沢議員の質問にお答えをいたします。

大きな第1点、株式会社安房自然村の不動産侵奪及び建築基準法違反及び農地法違反についての御質問でございますが、株式会社安房自然村の不動産侵奪については、被害者同盟の方が警察当局へ告訴したと伺っておりますが、警察当局においても現在調査中だというふうに伺っております。

建築基準法違反及び農地法違反については、許可権者はいずれも県知事にありますので、それぞれ関係機関を通じて報告してございます。なお農地法違反関係につきましては、農地転用関係事務指針により現場調査及び事情聴取を行い、農地法第5条の許可権者は知事でありますので、県に事

案報告を行っております。

市長に対する原状回復を求める申し入れについては、まず、すでに事案が告訴されたものであること、また次に許可権者は知事にあることの理由から、農業委員会にすでにそのことを伝え、県の指導を得るよういたしてございます。県の指導を受けまして法が正しく運用され、市民の権利が守られるよう期待するものでございます。

大きな第2点、市職員の給与引き上げについてでございますが、本年度の職員の給与改定については、本市の場合、従来から千葉県に準じて実施しておりますので、10月19日の県人事委員会勧告に伴い、県がどのように実施されるか、その動向を見きわめた上で対処いたしたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○2番（田沢勝信君）　ただいま、第1点目の件につきまして、小さな第1点の件につきまして、これまでの本事件の概要と経過について私が申し上げたとおりでよろしいのかどうなのか、そのことの御確認をまず願ったわけでありましたが、この件につきましては、館山市農業委員会が調査した模様でありますから、私が申し上げた事件の概要と経過についてそのとおりであると確認してよろしいのかどうなのか、御意見を賜りたいと思います。特にこの件につきましては、農業委員会からお答えを願いたい。そういうふうに考えます。

○農業委員会事務局長（庄司　徹君）　田沢議員さんのただいま御照会ありましたいままでの経過、それからどのような所見を持つかというようなことにつきまして、経過を御報告申し上げます。

8月13日頃、ある議員さんから御照会いただきましたし、新聞記者さんからも同件について照会ございました。8月15日農業委員会の事務局のみで現場調査、その事情聴取を行ったということになります。自然村の井手口社長、それから豊田専務夫人、それから被害者同盟の12名の方とも面接をいたしたわけでございます。

そのときの指導といいますのは、やはり農地法は双方の申請に基づくものでございます。渡し人すなわち地主、それから受け人、権利を設定して転用を行おうとする者双方からの申請でございます。そういうような観点

から、正式な手続に基づく双方申請であるから、ぜひ円満な解決をした上で農地法5条の申請をするように指導をいたしました。

それから8月17日、それから8月21日これらにつきましては新聞紙上で一部報道されました。

8月23日に安房自然村の豊田専務ほか1名の方が農業委員会に出頭願いまして、それらのゴルフ練習場、それから遊歩道そういうようなものについて書類等、図面そういうものを提出さしていただいたわけで、それについての再度の事情聴取を行ったわけでございます。

それから、10月23日に安房自然村の井手口社長と豊田専務の2人を、先ほど議員さん御指摘のとおり、新聞紙上によりまして不動産侵害の告訴を行ったということでございます。その時点におきまして警察の方からも農地法の事情聴取というようなこともございました。警察におきましては先ほど市長がお答え申し上げましたように慎重に取り扱っているということでございます。

それから、10月27日にさらにそういうような新聞関係が告訴というようなことも伺った関係から再度会社側の豊田専務さん、それから被害者側の黒川三之助さんほか6名の方の事情聴取を行ったわけでございます。

うちの方の関係でございますが、議員さんの言われましたように、そのとおりであるかどうかということにつきましては、先ほど申し上げましたように不動産侵害ということにつきましては、これは刑法の適用を受けるわけでございます。そうすると、私どもとしては、その権者はあくまでも警察にあるという解釈から、やはり類推解釈をすべきではないか、警察等でそれらのことが慎重に決められた段階を踏むべきではないかというふうに考えております。

それからなお、告訴をされたという段階で、いままで農地の事案の報告を行っておったわけでございますけれども、農地の違反転用というんですか、事案報告に切りかえまして——この面につきましては御指摘のとおりでございます。県の方へ、安房支庁の産業課と私どもで県の農地課に赴きまして文書を出して来たということになります。

以上が、いままでの経過でございます。

○2番（田沢勝信君） 私どもの調査によりますと、すでに安房自然村の

社長及び豊田専務の答弁の中にも、さきに申し上げた9名の地権者の土地を無断使用したと、そのような言明がされておりますが、この点については御確認できますか。

○農業委員会事務局長（庄司 徹君） この件につきましては、私ども事情聴取して県に報告するというところでございまして、双方の言い分をそのまま県の方へと伝えたということになるわけでございまして、無断使用であるかどうかという確認、これにつきましては検察当局が行うべきものであらうというふうに思っております。

○2番（田沢勝信君） ただいま、本件は告訴をされた事件でありますから、この件につきましては警察の調査権限になる。そのような答弁がございしますが、私はこの件につきましては、農業委員会が調査の段階で無断使用しているそのような判断があったのではないかと、そういうふうに考えますが再度、そういう現実の社長の答弁なり、安房自然村の関係者の答弁なりなかったのかどうなのか、御確認をしたいと思えます。

○農業委員会会長（斎藤 明君） ただいまの質問に対してお答え申し上げます。

無断使用の点についてどうかということでございますけれども、この件につきましては会社側もこれを認めておるわけでございますので、当然うちの方は、それをそのままのとおり県の方に報告してあります。

○2番（田沢勝信君） わかりました。

本件については、まず確認できるのは、安房自然村がこの9名の者の土地を無断使用した。その旨を安房自然村も公言しておるし、その旨農業委員会としても県に報告した。そういうことを改めて御確認いたします。

さて、細かな第2点の質問に移りますが、本事件が建築基準法違反であるかどうか、その申請手続がされているのかどうなのか、そのことをまず御確認をしたいと思えます。

○経済部長（山田俊康君） 建築確認申請をしておりません。

○2番（田沢勝信君） 許可権限事項は千葉県知事にありますが、この申請の窓口は館山市で行っているんじゃないかというふうに思います。

そこで、御質問いたしますが、確認申請を出していないことにつきまして、市といたしまして何らかの指導を行ったのかどうなのか、そのことを再度

御質問いたします。

○農業委員会会長（斎藤 明君） ただいまの確認申請ということでございますけれども、御承知のとおり農業委員会というものは、双方から申請された事案に基づいて審議を重ねるものでございます。その手続等はまだとられていないものでございますので、それについてここで答えするということについては、うちの方はまだその段階でございませんので——ただし、事实现場を調査した結果、建築確認がおりないのにやっておるということも、これはわかりましたので、県の方にも通じまして報告を申し上げ、県の指導を得るようというところで、直ちに営業の面につきましても差しとめを、営業をとめてくれというような申し入れもしてあることも事実でございます。それ以上のことはできませんので、よろしくお願い申し上げます。

○2番（田沢勝信君） 関連しまして、館山市の農業委員会から違反転用報告書が上がっていますが、この報告書を見ますと、農地法第5条の違反になる。そのように書いてあります。私が考えるには、農地法第5条は農地転用のための権利の移転の制限事項の許可事項であります。したがって私は、本事件は農地法第4条農地の転用の制限これにあてはまるんじゃないだろうか、そのように考えるわけであります。

いま、農業委員会からの答弁によりますと、双方から第5条の申請が上がっていない。そのような答弁であります。私は、この事件は他人の土地を無断で使用し、しかも畑地を勝手に農地以外に転用している。こういう事例は農地法第4条に適用されて行政指導がされるべきではないかと、そのように考えますが、いかがですか。

○農業委員会会長（斎藤 明君） 御指摘のとおり、第4条ということになりますと、名義人は当然会社側のどなたかの名義になるわけでございますけれども、これらの手続も当然まだとられてないということでございますので、4条にも該当しないということになるわけでございます。

5条の場合には双方から、4条の場合には自分の名義の土地に家を建てるということでございますので、所有者1人の申請によってうちの方は事務処理をするわけでございますけれども、まだ井手口社長の名義になっておる土地はないということでございますので、4条ということもこれは該

当してこないということの見解を持つわけでございます。したがって、従前いままで持っておられた権利者、それから義務者双方手続をとってくれないといかぬわけでございますので、4条にも該当していないということでお答え申し上げるほかはございませんので、よろしく。

○2番(田沢勝信君) ただいまの答弁を聞いていまして、どうも本事件にかかわる農業委員会の姿勢の問題であります、手続の問題に終始しておるように聞えてなりません。

私は、農業委員会は農地法の順守、農地を守っていく、そのような基本的な立場があるかと思いますが、このように地権者に無断で、しかも農地法に違反して転用している、このことについて改めて農業委員会としての所見をお聞かせ願います。手続の問題じゃなくて。

○農業委員会会長(斎藤 明君) 私ども農業委員会の姿勢といたしましては、あくまでも農地を保全する立場でございます。したがって、無断転用とか、無断許可をしてそこに建物を建てるということについてはもってのほかでございますので、嚴重に抗議も申し入れなければいかぬわけでございますので、それぞれの立場の関係機関の指導を受けながら一応通告はしてあるわけでございます。

うちの方は、あくまでも農地サイドに立って、農地の保全を図る立場でございますので、転用ばかりを進めている委員会ではございませんので、その点は誤解なさらないようにひとつお願いを申し上げます。

○2番(田沢勝信君) ただいま、農地法違反に対して抗議もしておる。しかるべき指導を受けながら抗議をしているという答弁であります、具体的にはどのような抗議をなさったのか、その点について再度御質問いたします。

また、この違反転用報告書を見ますと、地権者らが警察署に告訴して以来、なおかつ農業委員会の意見として地権者との円満解決の上、申請手続をとるよう、そのような意見書を添付しております。私は、いま答弁があった抗議をしている、そのような認識があるならば、この意見書の中に原状回復が必要だ、そのような意見が添付されてもいいんじゃないかというふうに考えております。ところが、農業委員会の意見は全く違っております。このことに関しまして、農業委員会といたしまして県に対して原状回

復の要あり、そのような認識の文面なり、要請なりができないものなのかどうか、ここで答弁をお願いします。

○農業委員会会長（斎藤 明君） お説のとおりでございます。よって、県の方に対しましては——原状回復命令これはうちの方で単独で出すことはできませんので、県の指導を得ながら一応こういう事例があるんだということは詳細にわたって報告は申し上げておるわけでございますので、県の方の、あくまでも行政機関の指導を受けながら、関係機関の指導を得ながら一応通告も出しているわけでございますので。

○2番（田沢勝信君） 私がいま質問申し上げたのは、確かに本件につきまして原状回復命令なりは千葉県知事の権限であります。しかしながら、本件につきまして農業委員会としての意見は県知事に出すことができるんじゃないかというふうに思っています。この意見が、地権者と円満解決云々となっておりますので、これに対して農業委員会としまして安房自然村に抗議なりしておるようでございますので、地権者の主張を入れまして原状回復の要あり、そのような意見を県に上げることができないのかどうか、そのことをいまお尋ねしているんでありますが、どうですか。

○農業委員会会長（斎藤 明君） ごもっともでございます。しかし、本件につきましては告訴に踏み切られておるというようなこともございますし、通常私どもの事務サイドにおきましては刑法なり、民法なり——要するに告訴に踏み切られたものについては一応委員会としては、いままでの慣例の中ではそれらの司直の手におまかせするということで、農業委員会の手の届かないようなところに置かれてしまうということになるわけで、したがって、問題がすでに警察、司直の手の方に入っているということの事例になりますと、あまりにも深入りすることもうちの方のいままでの慣例からよりますとできませんので、これは当然被害者同盟なる方々にも面接したときにお伝え申し上げてあります。これ以上のことはもうできなくなってしまうのでよろしく、話し合いの中ですることならば、いつでも仲介の労は惜しみませんけれども、告訴なりに踏み切られますと、うちの方ではそれに関与するわけにいきませんということでお答えを申し上げていると思うわけでございます。

○2番（田沢勝信君） 最後に、本件についていま御確認できるのは、こ

の安房自然村が他人の土地を無断で使用している、このことが1つ確認できます。もう1つは建築基準法違反行為、申請をしていない、このようなことも確認できます。また農地法に違反している。このことについても現状として確認できるんじゃないかというふうに思います。

そこで、最後に御質問申し上げますが、こういう違法行為を続けておりながら、なおかつ営業している。このことに対してどのような対処をしていくのか、このことを最後に1点質問申し上げたいと思います。

○農業委員会会長（斎藤 明君） 最後の質問にお答えいたします。

これは、許可のおりてない土地は使用してはいかぬということでございますのがたてまえですので、当然また県の方にも申し入れ、またうちの方からも県の方から通達が来たとおり、会社側に使用することは許可のおりるまで差し控えていただくよう申し入れるつもりでございます。

○2番（田沢勝信君） 第1点目の私の質問に対してお答えを願いましたので、本件についてはわが党を通しまして県会の中でもさらに追及を深めてまいりたいと思います。

そこで、大きな第2点目の質問に移ります。先ほど館山市職員の給与引き上げについて市長の答弁は、千葉県に準じて実施しているので、県の動向を見きわめながら対処していきたい、その旨答弁があったわけでありす。

そこで、再質問をいたしますが、さきの臨時国会の中で、国家公務員の給与改定が2%ということで、自民党単独によって強行されました。このことを見たときに、私はもはや人勧制度そのものをゆるがすような事態に至っている。そのような認識に立っております。

市長は、6月の私の質問に対しまして人事院勧告の制度を尊重したい。またそれに加えて国と県の動向も考えて対処してまいりたい。そのように答えておりますが、いま市長といたしまして、国が2%ということを決定しておりますが、市職員の給与引き上げを考えた場合、この人勧制度を無視したような2%に拘束されていくのかどうか、市長の御見解を聞かせてほしいと思います。

○市長（半澤良一君） それを順守してやっていきたい。

○2番（田沢勝信君） 順守してというふうにいま答えられましたが、あ

まりよくわかりませんので——これまで市長は人事院勧告を尊重するということも答弁されておられます。県、国の動向を慎重に見きわめて判断したい。そのようにも答えております。

そこで、83年の市職員の給与引き上げについて、いまお考えになっていること、この国の2%に強く拘束されるのかどうなのか、そのことの所見をお願いしたいと思います。

○市長（半澤良一君） 拘束されるというと語弊がありますけれども、国、県の指導に従う。

○2番（田沢勝信君） 私は、市の職員の賃金は去年も凍結され、そうしてまだ83年度分の勧告すら実際には出されていないわけであります。

ただいま市長は、国の2%に拘束とまではいかないが、強く影響を受けざるを得ないだろう。そのような旨の答弁があったわけではあります。この2%の給与引き上げではあまりにも市の職員の生活を改善するものにならないし、しかも市職員の給与引き上げは市職員の生活の安定のみばかりでなく、この館山市経済にも大きく影響するものだと考えております。そういう意味で、この2%という賃金引き上げは勤労者の生活を改善していくものなのかどうなのか、どのようにお考えになっているのか、市長の所見をお聞かせ願います。

○市長（半澤良一君） 2.1%アップという国の率について、いろいろこれは見解の分かれるところではありますが、私どもとしては、市町村としては国や県の指導に従わざるを得ない。

○2番（田沢勝信君） 私は、市の職員の先頭に立つ者として国や県の指導に従わざるを得ない、そのような見解はたびたび聞いておりますが、この2%という状況が果たして市の職員の生活を安定していくものと考えておられるのかどうなのか、そのことの所見を聞いたわけではあります。再度その点につきましてお願い申し上げます。

○市長（半澤良一君） 安定するかどうかについては、私は何とも申し上げられません。

○2番（田沢勝信君） 市の職員の生活について、2%の引き上げでは何とも申し上げられない、安いとも高いとも、改善するともしないとも申し上げられない。このような答弁で非常に残念なわけではあります。

時間の関係もありますが、私は、市長はぜひ市職員の先頭に立つ立場から、きちんとこの2%の基準の問題につきましては所見を持って今後の職員の給与引き上げについて検討していただきたい。そのような要望を強く申し上げて、今回の2点につきましての質問を終えさせていただきます。

○議長（石井 正君） 以上で、2番議員君の質問を終わります。

次、20番議員石井武敏君。御登壇願います。

（20番議員石井武敏君登壇）

○20番（石井武敏君） 私は、すでに通告してございます数点につきまして御質問を申し上げたいと思います。

私の通告しました質問は、1 新年度予算編成にあたり市長の基本構想及び重点施策についてどうか、2 老朽市営住宅の建て替え促進と修理個所の修復について計画はどうか、3 重度身障者、精薄者の施設の建設を県へ働きかけることはできないか、4 父子家庭の福祉の推進についてどう考えますか、5 ボランティア活動の拠点を設置充実できないか、6 図書館の増築と今後の運営について計画を示していただきたい、等6点にわたって御質問を通告してございます。

第1点につきましてでございますが、これは新年度予算編成時にちょうどあたっておりまして、いろいろと作業も進められておることと思います。この59年度は国や地方ともにさらに厳しい財政環境が予想されるわけでございます。これは周知のとおりでございます。こうした中で財政の効率的な運営を進めながら市長がどのように市民の生活向上のために対応していくかこれは注目をされるところのものでございます。新年度の市長の予算編成の取り組み方、つまり財政運営の見直しをどのように行っていくか、また、生活環境基盤整備をどのようにしていくか、あるいは住民の行政需要にどのように対応した福祉やあるいは文化の分野における行政サービスを実施していくか等々さまざまな角度からこれらが検討なされていることと思いますが、これらの基本となる市長の構想及び重点施策につきまして御説明を承りたいと思うのでございます。

次に、第2点の老朽市営住宅の建て替え促進と修理個所の修復についてでございますが、当市の市営住宅も古い建物、建造物としましては、昭和24年建設のブロックづくり北条市営住宅、あるいは昭和35年建設の木

造平家建て笠名市営住宅、また昭和37年の木造平家建て大賀市営住宅等々がありますが、時代に適合した建物に建て替えることができないかどうか、この点につきましてお考えをお示し願いたいと思うものでございます。

また、修理を必要とする箇所が大分あるように思うわけでございます。これらは日常茶飯事的に、私たちの耳に、「ここを直していただきたい」、「あそこもこうだ」というような御意見を賜わる次第でございまして、これらの改善計画がありましたら御説明をいただきたいというように考えます。

次に、第3点目の重度身障者、精薄者の施設を周辺市町村と共同し建設の要請を県に働きかけることはできないかという質問であります。当市は申すまでもなく県北の都市に比較をしまして温暖な気温に恵まれておりますし、きれいな空気に恵まれておるものでございます。こうした県の施設を誘致するということは、いままで遠方に行かなければできなかった当市の身障者のリハビリ等もすぐそばで行われることになりまして、大変そうした面からもプラスになる面が多いというように思います。これはぜひ県の方に強く要望して実施の方向へ持って行っていただきたいというように思うものでございますが、この点について御説明を願いたいというように思います。

次に、第4点目の父子家庭の福祉の推進についてでございますが、いままでは母子家庭福祉はさまざまな面から検討が加えられて進んできております。この母子家庭の援助の進みぐあいから推しはかりまして父子家庭となりますと、これが生活能力があるということで置きざりにされてきているのが現状であるように思われます。しかし、現実的には子供を抱えまして炊事とか洗濯等々援助を必要とする面がかなり多くあるように見受けられます。最近はこの父子家庭に対する援助が国や県でも考え直され、見直されているように思います。そういう時期にきているように思います。そこで当市におきましてもぜひ検討を加えていただきたいというように思うものでございます。たとえば、1 父子家庭の医療費について新しい施策が考えられないかどうか、2 ホームヘルパーの派遣についてはどうか等々であります。これらの点につきましてどのようにお考えになられるか御答弁を賜りたいというように考えます。

次に、第5点目のボランティア活動の拠点を設置充実できないかという質問であります。当市におきましても年々ボランティア活動が活発化してきております。ボランティアを志す人たちもふえてきております。行政ではなかなか行き届かないところへ自主的に手を伸ばしてくれるということは当市にとりましても大変プラスになることと思います。そこで、私はこのボランティアを行いやすい環境や行きやすい設備、あるいは行きやすい条件を整えてあげることが必要ではなかろうかというように私は考えるわけでございます。

まず、ボランティアの拠点であります。いままでは福祉協議会が中心となりまして市民センターで会合や連絡等が行われているようですが、ボランティア専用の部屋もなくして他の相談室と、あるいは他の仕事と雑居状況でございます。雑居をしているのが現況でございますので、ボランティア活動の円滑化を図るために専用の部屋を設けて、それなりの環境の整備が必要ではなかろうかというように考えます。この点につきましてお考えをお聞かせ願いたいと思います。

最後に、6点目の図書館の増築と今後の運営についてであります。この増築につきましては、私はかつて通告質問で教育長の方から御答弁を賜っております。この点につきましては前向きに検討していく旨の御答弁がたしかあったわけでございますが、その後どのような検討をなされてまいりましたでしょうか、お尋ねをしたいものでございます。

また、今後の、将来の図書館のあり方、運営を考えてみますと、いままでのような学生の勉強室的な運営からさらに多角的、効率的な運営への脱皮が必要ではなかろうかというように考えるわけでございます。つまり、利用者層を年少児童から高齢層に至るまでの幅の広い活用のための方策、たとえば児童ルームを整えてもっと児童本をそろえろとか、今後の運営に関しまして検討を加えていく必要があろうかというように思われますので、そうした点におきまして計画やお考えがあればお答え願いたいというように考えるものでございます。

以上、6点にわたりまして私が御質問申し上げましたけれども、いずれも新年度の予算編成の内容と関連をしまして非常に大事な施策であるというように考えるものであります。また、これらの6点は私たちが常に住民

と接しながらいろいろの角度で、いろいろの場所でとらえたものを今回通告質問として整理をして御質問申し上げたものでございますので、市長さんの方から前向きな御答弁を期待するものでございますが、よろしくお願い申し上げます。御答弁によりまして再質問をしたいと思います。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

第1点、新年度予算編成にあたり市長の基本構想及び重点的施策についての御質問でございますが、昭和59年度予算につきましては現在編成作業を進めているところでございますが、国、地方とも引き続き財源不足が見込まれ、来年度における財政環境につきましては一層厳しいものが予想されます。

したがってまして本市の財政運営につきましては国、県の予算編成及び地方財政計画の動向を踏まえながら、財政構造の健全性維持と弾力化を目指し、行政の減量化、効率化等、より一層財政運営の合理化を図り、従来から進めてまいりました住みよい環境づくり、福祉社会づくり、教育文化の環境づくり、産業の基盤づくり、の4点を主要施策として、館山駅周辺市街地整備をはじめ、国道127号バイパスの早期実現と都市計画街路、都市下水路の整備など近代都市としての必須要件を満たすとともに、未給水地域の解消と将来に向けての対応を図るための上水道第3次拡張事業の推進のほか最終年度を迎える清掃センターの建設、城山公園につきましても引き続き整備を進めてまいります。

そのほか、教育文化の振興、真に援護を必要とする方々への福祉の充実、農水産及び商業の近代化、また多季型観光地づくりのための産業、観光の振興を進め、明るく豊かな香り高い文化福祉都市の実現に向かって最善の努力をしてまいりたいというように考えております。

第2点、老朽市営住宅の建て替え促進と修理個所の修復についての計画はどうかという御質問でございますが、当市の市営住宅は1種住宅42戸、2種住宅272戸、計314戸を管理しておりますが、そのうち木造住宅で老朽化している建物を耐火構造に建て替えをし、質的充実と量的充実を図り、住みよい環境整備を財政状況を十分勘案しながら進めたいと考えております。しかし、入居者に建て替えの必要性をよく理解していただくた

めに、十分な話し合いを持ちながら進めてまいりたいと考えております。

次に、修繕でございますが、中層及び簡易耐火構造物については主として防水、外装修理を年次的な計画により実施しております。また木造建物につきましては、よく調査をし、入居者の要望等も聞いて修理をしておりますが、なお一層の調査をし、万全を期してまいりたいと考えております。

第3点、重度身障者、精薄者の施設を県に働きかけることはできないかという御質問でございますが、心身障害者の施設の設置につきましてはその障害者に適応した各種収容施設または通所利用施設が地域的に配置されていることが必要であり、地域福祉の観点に立った総合的な心身障害者施設を県南に設置し、地域福祉活動を推進していくことは大事であると考えております。

このようなことを踏まえまして、去る11月開催されましたブロック別——これは安房郡内の各市町村長会議でございますが、その会議におきまして県知事及び関係職員にこの問題を提起いたしまして、施設の建設について要請いたしました。今後とも施設の具現化につきまして引き続き要請してまいりたいと考えております。

第4点、父子家庭に対する福祉の増進についてでございますが、父子家庭は母子家庭とは異なった状況等を十分考慮の上、その対応を検討してまいりたいと考えております。

まず、父子家庭の医療費につきましては、その実施について検討してまいりたいと考えております。

次に、ホームヘルパーにつきましては、現在県において母子及び父子家庭に対し一時的な疾病の場合の介護人派遣事業を実施しており、市といたしましてはこの事業への一層の助力を進めてまいりたいと考えております。

次に、第5点、ボランティア活動の拠点の設置充実につきましては、現在社会福祉協議会を中心に市民センターに拠点を設置し、活発な活動がされているわけでございますが、市といたしましては今後もボランティアの方々の研修、あるいは会議等、活動の拠点の場として市民センター会議室の弾力的な運営を図ることによって事業の充実に助力をしてまいりたいと考えております。

第6点、図書館の増築と今後の運営については教育長より御答弁申し上げ

げます。

○教育長（安田豊作君） 第6点の、図書館の増築と今後の運営について計画を示していただきたいという質問にお答えいたします。

まず、図書館の増築についてですが、ただいま館山市の図書館はどうあるべきかという視点から施設整備、図書の実、活用方法等について将来構想を館山市図書館協議会に諮問しております。この答申を待つて対処していきたいと考えております。

次に、運営について、御指摘のとおり図書館が一部の研究者や学生のための施設であってはならないわけで、現在市民の皆さんに広く利用していただくために児童用図書の充実、遠距離利用者のための配本車の巡回、心身障害者のための郵便貸し出しや視力障害者のための対面朗読などを実施しております。今後の活動についてもさらに創意工夫をこらしながら一層の努力を重ねて、市民皆さんに満足していただけるような図書館にしていきたいと存じます。

以上。

○20番（石井武敏君） ただいま市長さんからるる御答弁ございまして、おおむね了承するものでございますが、なお何点か関連的にお尋ねしたいことがございますので、御質問申し上げたいと思います。

初めの予算編成の取り組み方、基本となる市長さんの構想、理念等々、そうしたものに關しまして御質問申し上げるものでございますが、私は財政的には非常に厳しいということはよく理解しているつもりでございますが、こうした中でも極端な福祉予算の削減や見直しというものは避けるべきであるというように考えております。時代の推移から言いましても物価や各種の税金が上がってきておりますし、暮らし向きの悪いときにこそ住民の求める必要急務な事業から施策の選択を進めていきまして、そして本当に福祉を求めている人たちには福祉を見直すのではなくて温かい政治の配慮が必要なときであるというように考えるわけでございます。

こうした福祉社会づくりという面から考えまして、市長さんの御見解を伺いたいわけでございますが、新年度におきます福祉関係の予算について基本的な姿勢はどのような姿勢で取り組まれてまいりますかお答えいただきたいというように考える次第でございます。

それから、ただいま新年度の施策の主なものが御答弁の中でありまして、その中に館山駅周辺市街地整備、また国道127号線のバイパスの早期実現、あるいは未給水地域の解消等々とありましたが、これらは今年度からさらに新年度推移されてだんだんと完成されていく事業である、継続されていく事業であるというように考えられますが、新年度におきまして、たとえば館山駅周辺市街地の整備は大体どの辺まで行っていくのか、どの程度までは行いたいと思っているのか、そうした骨子ができ上がっておりますたらお答え願いたいというように考えます。

また、国道127号線バイパス、これも早期実現を市民の、住民の中では願っている声も多く最近は聞きますが、こうした中で新しい年度にはどの程度まで完成させていくおつもりなのか、目安があればお答え願いたいと考えます。

それから、もう1点、未給水地域の解消、これも大変大きな問題で、ある地域におきましては全く悲願であるというように、非常に切望している地域があるわけでございます。そうした地域の人たちにとっては非常に関心を寄せるところのものでございますので、未給水地域の解消といういまの御答弁に関連しまして、新しい年度にはこれをどの程度まで推進なさっていく御計画がおありかどうか、こうした点をもう少し今般の質疑を通して明らかにしていただきたいと思いますので御答弁願いたいと思います。

それから、市営住宅の——老朽化をしました市営住宅につきましては、将来的には耐火構造に建て替えていく方向であるという答弁を承ったわけでございますが、これも大変老朽化しておるものもありますので、そういう方向をぜひ重ねて推進していただきたいというように考えますが、いま少しく耐火構造に建て替えていくんだという方向があれば——何かもう少し具体的な計画をお持ちのように感じられますので、その計画を——たとえば、何年ぐらいまで、どの辺まで建て替えをなさるのか、もう少し輪郭をはっきりさしていただきたいというように考えます。

それから、合わせまして現況の市営住宅の修理、修復の問題についてありますが、これももう少し——来年度はどの程度具体的に修理をしていくのか、これは切実な問題にあるだけに今回説明を求めておきたいと思い

ます。お答え願いたいというふうに考えます。よろしく願います。

○市長（半澤良一君） 福祉関係の予算についての基本的な姿勢の御質問でございますけれども、御案内のように行政改革等をはじめきわめて——すべての面でそうでございますが、福祉の面についてもきわめて財政的に厳しい環境にありますけれども、政府が変わるわけでございますのでどうなるか、59年度の政府予算はまだわかりませんが、いままでのわれわれに伝えられておりますところでは、一般経費は5%減、公共事業10%減ということで予算編成をする方針のようにわれわれ承っていたわけですが、その中において福祉については削減をしないというような方針を承っております。政府が変わってもおそらくそういうような方針でいくんではないかと思えます。

いずれにしても厳しいことであることには間違いございませんので、市民の福祉需要を十分見極めまして、時代に適合するようきめの細かい施策を講じてまいらなければいけないというふうに考えております。特に障害者や老人の方々などの社会的に弱い立場にあるの方々に対しまして、そういう福祉の推進につきましては在宅福祉に重点を置きまして諸施策の充実を図っていきたい、そのように考えております。

○経済部長（山田俊康君） 駅周辺の再開発、あるいは区画整理関係でございますが、市長から9月議会にもお答えいたしましたように駅東口、こちらの地区につきましては、現在までの進捗状況から考えますと60年度に市街地再開発のB調査を実施し、61年乃至62年に事業認可というような方向で考えております。

それから、西口地区につきましては、60年度事業認可、61年度から工事着工というような計画で考えております。

それから、127号バイパスの早期実現ということでございますが、これにつきましても国の予算の関係等もございまして、完成の見通しということになりますとちょっとはっきりいたしません。国自身が考えておりましたものは、全面供用開始ということにつきましては中期計画というような計画だと言っております。現在のところ、本年度一部正木のほ場整備地域内の道路改良工事が発注されております。また那古地区のヤマカ醤油屋さんより北、山の方に向かって発注されるという状況でございます。

そう遠くなく部分供用等はされるものと期待しております。

○水道課長（石井敏夫君） 御質問の未給水地域に関する件でございますが、現在神余地内にダムを計画いたしまして、新たな水源のもとに未給水地域の解消、それから館山市の将来の水需要に対応できるように第3次の拡張事業ということで計画を進めようとしておりますが、本年度神余地内におきましてはボーリング調査、それから横坑調査、地形測量、流量観測、これらの諸調査を専門家——いわゆる建設技研株式会社でございますが、そこに調査委託をし、現在作業を進めておるところでございます。

さらに、また給水人口、給水量、これらの将来の予測、水道施設計画につきましては吉沢水道コンサルタント——これは施設の関係のコンサルタントでございますが、そこに委託しまして基本計画を作成するようお願いしております。

で、昭和59年度におきましては、引き続きまして地質調査——これはボーリング、横坑でございますが、それと基本計画を作成する。さらには認可申請書までも作成していただくということで、河川法に基づきます許可申請、それから水道法に基づきます事業変更認可申請、これらの提出できるようになるまでを来年度実施したいということで考えております。

○経済部長（山田俊康君） 老朽市営住宅の改築の時期はいつごろを予定されているかということでございますが、市長からお答えいたしましたように入居者の理解を得ながら進めたいということで考えております。駅周辺の市街地再開発の問題等もありまして、北条市営住宅——昭和29年に建てました、北条市営住宅の問題等もありますので、時期的な問題といたしましては62、3年ごろから改築というように事務の方では考えております。

それから、修理の関係でございますが、これも市長からお答え申し上げましたようによく調査をいたしまして、入居者の要望等を聞いて、それで万全を期していききたいというふうに考えております。

○20番（石井武敏君） ただいま再質問に関しまして御答弁いただきましておおむね了承するところでございますが、この中の、施策の中で未給水地域の解消につきまして、全体計画の中では新年度はボーリングをする、地質調査程度にとどまっておるんですが、進みぐあいとしてはどうなんで

しょうか、順調にこれで進んでいるというふうに判断していいんでしょうか、この工事がですね。

それから、市営住宅につきましてですが、これはただいまの御答弁でいきますと、62年、3年ごろからの改築、大体の想定ができるというふうにありましたけれども、62年、63年というのは——来年度が60年ですけれども、大分余裕があるように思うんですけれども、これは何か理由がありますか。住民との話し合いが非常にむずかしいとか、一時立ち退きがむずかしいとか、あるいは何か財政的な事情があるとか、どのような事情があるんでしょうか。計画の中で御事情を御説明願いたいというふうに考えます。

それから、もう1点、関連しまして、これは予算要望でも出しておきましたけれども、非常に市長さんお忙しい中でお会いすることができなかったものですから、改めてこの場所でお尋ねをするわけでございます。

笠名の住宅の周辺の市道の舗装につきまして予算要望を出してありますが、お答えをまだ聞いておりませんでしたので、この場所をお借りいたしまして関連で御質問いたしたいと思います。

○水道課長（石井敏夫君） ただいまの御質問でございますが、地質調査等につきましては今年から継続というような形になりますけれども、現時点、当初考えました、いわゆる58、59年度で調査事務を終了して申請のできるようにするということにつきましての58年度分につきましては目的どおり実施できるという見通しになっておりますし、59年度も行程に従って実施できるものと考えております。

○経済部長（山田俊康君） 市営住宅の建て替えの問題でございますけれども、北条市営住宅につきましては昭和29年という建築でございますが、その次に古いものということになりますと笠名の昭和35年住宅からでございます。そういった観点等もありまして入居者の理解を得るのに相当前からこれらは理解を得ないとうまくいかないということで、これだけの期間が必要だろうということでございます。

なお、笠名住宅内の道路で舗装をしなければいけない部分については、できるだけ早い時期にこれをしてまいりたいというふうに考えております。

○20番（石井武敏君） 質問を先に進めます。

重度身障者と精薄者の施設の建設を県に働きかけることはできないかという質問の答弁に対する再質問であります。この件につきましては11月にブロック別の、安房郡市内のトップ会談があって、その際いろいろ話が出て、知事が出席なさって問題を提起したというような御答弁でございました。一応形の上では要請をしたということでございますが、いわゆる県の感触としてはどのように——こうした要請に対しまして県の方の感触というものを伺いしておきたいんですが、どのようなものであったかお聞かせ願いたいというように考えます。

それから、次の父子家庭の福祉の推進についてであります。御答弁によりますと、父子家庭の医療費の助成を実施してまいりたいというような旨の御答弁があったように思いますが、これにつきましてももう少し具体的に説明を加えていただきたい。どのような援助をするのかということでございます。

2点再質問いたします。

○民生部長（鈴木 力君） 身体障害者、精薄者の施設の設置について県への働きかけ、要望に対しまして、県はどのように対応するのか、あるいはその感触はどうかということでございますが、県といたしましては県が先に設置いたしました袖ヶ浦の福祉センター、この施設の利用ということをもまず考えております。なお、市町村、自治体で県下各所に設置された施設がございます。そのほか民間の社会福祉法人におきまして設置をいたしました障害者施設、こういうものがございます。これらの施設をそれぞれ利用することによっての対応をしてまいりたい、こういうふうに……。

最近、養護学校の義務化に伴いまして、養護学校の卒業後の進路、保護という問題が一つの問題となっておるわけでございまして、いわゆる各施設への入所ができないような、そういう障害者の対応でございしますが、一つの例といたしまして、県は広域的な対応として、たとえば広域的に周辺市町村が共同処理事業として市町村が主体となりまして更生施設を設置しよう、こういうこともございます。そういう方法がある。それから、なお社会福祉法人に運営を委託するとか、そういうことがあるということでございまして、今後も県といたしましてはこの問題について相談に応じ対応してまいりたい、このような回答があったわけでございます。

それから、父子家庭に対する問題でございますけれども、先ほど市長の方から御答弁申し上げましたとおり、市といたしましては母子家庭の現在医療費支給制度がございますが、これに準じまして父子家庭についても医療費の支給制度を検討してみたい、こういうふうに考えておるわけでございます。

そのほかに、父子家庭に対する対応といたしましては、いわゆる介護人派遣制度ということで千葉県の母子福祉会に県が委託して行っております事業というものの活用を図ってまいり、このように考えております。

○20番（石井武敏君） 身障者の施設を県へ働きかける問題につきましては、これは県の計画にまだ載っていないものを載せるわけで、大変な努力も必要であろうとは思いますが、ぜひいまの努力を継続なさって、実を結んでいくような方向でひとつやっていただきたいということを要望したいと思います。

それから、父子家庭につきましては、御答弁にありましたけれども、母子家庭並みの医療費の援助、これを実施をするということを考えておるということで、ぜひ進めていただきたいと思います。ぜひこれを新年度組み入れるというような方向でやっていただきたいというように考えますが、これは要望申し上げます。

事実、父子家庭におきましては、いろいろと行政に対してこうしてもらいたい、ああしてもらいたいというような御意見とか希望が多いように思いますが、こうした父子家庭のいろいろな希望、要望をとらえるアンケート的なことは当市でとったことがありますかどうか。そういったアンケート等を出して、集めて、要望を聞いてみたとか、そうした事例はいままでありますか。各福祉関係、いろいろ老人は老人とか、母子家庭は母子家庭とか、障害者とか、いろいろやっておりますが、父子家庭については遅れているように思いますので、あえてお聞きしておきたいんですが、そうしたいままでアンケートをとった事例がありますでしょうか。

○民生部長（鈴木 力君） 市が、直接、父子家庭に対する実態調査というものはやっておりません。

昨年、11月に千葉県が県下の民生、児童委員を通しまして父子家庭の実態調査を行ったということは聞いております。

○ 20 番 (石井武敏君) 県ではとったということなのですが、県ではどのような——主なものは、項目はありますか。

また、私の質問は、父子家庭からどういう希望が具体的に出ましたかということを知りたいために質問しているわけなのですが、アンケートの中でそういった具体例がありましたでしょうか。具体例が出ていたら、データがあったらお答え願いたいと思います。なければ結構でございます。

○ 民生部長 (鈴木 力君) 先ほど申し上げましたとおり、県が昨年 11 月に行いました父子家庭の実態調査でございますが、この結果というものは市の方にまいております。その内容でございますが、この調査は父子家庭の形態、それからニーズを把握するために 20 項目にわたりましての調査をされたわけでございますが、その中の主な内容と結果を見ますと、当市の場合は 32 世帯がその実態調査の対象となっております。

内容的には、まず父親の困っていることは何かという質問に対しまして、その答えは家事において困っているというのが 15 件、それから子供の養育について困っているというのが 15 件、それから生活費が 8 件、結婚が 4 件、身近な相談相手が 5 件、職業が 4 件というような結果でございます。

○ 20 番 (石井武敏君) 質問を先に進めます。

ボランティアの拠点として市民センターをいまは使っているんですが、御答弁によりますと、市民センターの弾力的な運用をもってこれにかえたい——これにかえたいということおかしいですが、弾力的な運用を図ることによって円滑なボランティア活動の促進をしたいというように御答弁がありましたけれども、やはり雑居状況でございますので、いろんな仕事を 1 つの部屋でやっておるわけでございます。たとえば、ボランティアの推進にはこれは原則として需要と供給をうまくつなげるということが大事でありまして、そのための拠点をつくれないうということでございます。この点につきましては今後検討を加えていただきたいということで御要望申し上げます。

それから、最後の問題の図書館についてでございますが、これは図書館の運営協議会で検討なさっているということですが、専門家から見ますと、まだ非常に館山市の図書館はいろんな点で遅れているように思いますが、専門家の御意見はどうでしょうか。館山市の図書館に関してどのような点

が遅れているとお考えでしょうか。

○教育長（安田豊作君） 専門家にも見てもらったわけですし、話も聞いたわけですがけれども、遅れていると言うとちょっと語弊がありますけれども、いまの図書館のあり方は、むしろあそこの場で、図書館で本を読むという形から、本を借りて家庭で読むという形に、図書館のあり方が大きく変わっているようです。その点が1つ。

それから、もう1つは、図書館というのは基準としては、図書館の利用というのは1.5キロ以内の人しか利用できないというんですね、せめてあっても2キロ以内——以上の人は借りにこない。ですから、その人たちに対する手だてとしては分館をつくるとか、停本所をつくるとか、これはいまもやっておりますけれども、巡回車によって配本するというようなことも充実しなければならない、こういう点が大きく指摘されていることのようにございます。

さらに、2月にもう1回専門家に見ていただいて、答申を今年度中にもらおうということで対策を立てていきたい、こういうふうに考えております。

○20番（石井武敏君） 私も、図書館運営協議会の答申を待ちたいというふうに考えております。それを待って、また参考にしていろいろ意見を述べたいと思います。

新年度予算編成の市長の基本構想を中心にしまして質疑を展開してまいりましたけれども、おおむね了解しました。新年度予算の組み立ては十分に住民の行政需要に対応した編成を私は期待するものでございます。こうした中で市長は最善の努力を払っていただけるというように期待をしております。特に、福祉を中心とする施策の中におきまして、住民の要望に十分対応していただきたいということを希望いたしまして、私の質疑を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で20番議員君の質疑を終わります。

暫時休憩いたします。

午後2時19分 休憩

午後2時39分 再開

○議長（石井 正君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、10番議員横溝 功君。御登壇願います。

(10番議員横溝 功君登壇)

○10番(横溝 功君) 先に通告いたしましたとおり、次の諸点につきまして御質問いたします。

まず、大きな第1点の国道127号線バイパスとその排水対策についてですが、5点に分けて逐次お尋ねいたします。

小さな第1点、バイパスの完成期日の見通しですが、このことは去る9月の議会におきまして川名議員の質問に対し、また、ただいまの石井議員の質問に対しまして、国の計画は中期的にというように考えているとの答弁がありました。しかし、市としては早期に完成すべく推進中である旨の答弁がされております。その後、そのような方向で国に折衝されたかどうか。そして、もし折衝されたとすれば完成の目安もわかったことだと存じますので、その見通しについてお尋ねいたします。

小さな第2点、バイパスの構造についてですが、幅員は何mなのか。何車線なのか等、構造についてお尋ねいたします。

第3点、今年度中における測量見通しと地主との土地買収交渉の経過についてですが、去る6月の議会におきまして山中議員の質問に対し、今年度中に平久里川から国道128号線までの間を測量するとの答弁がありましたが、その後の推移状況をお尋ねいたします。そして、地主との買収交渉も逐次やっているものと思いますので、その経過についてお聞かせください。

小さな第4点、排水対策についてですが、バイパス道路面の排水はうまくやるものと思いますが、道路の埋め立ても広大になるでしょうし、また道路沿いも逐次宅造化されていくものと思われます。したがってそれだけ降雨の際の受け皿は少なくなるわけですから排水対策を誤ると将来に悔いを残すことになります。賢明なる市長さんのことだしこの点は十分考えておるようにも聞いておりますが、どのような対策を考えておるかをお尋ねいたします。

小さな第5点、国道128号線との交差点における混雑でございますが、これはバイパス路線及び国道上において、特に夏季には混雑が多くなると思います。また事故でもなければよいと考えておりますが、市の見解をお

聞かせください。

大きな第2点、市街地の排水対策ですが、小さな第1点、市内において排水対策を講ずる必要のある個所はどこかをお聞かせください。

小さな第2点、これが個所の排水方法をどのようにしておるか、その方針と処理の経過についてお尋ねいたします。

次に、大きな第3点、狭い市道の幅員の拡幅についてですが、市道の幅員が狭いため不可抗力的に交通事故も数多く出ております。これを放置しておくことはできません。そこで、まず小さな第1点の市道の幅員別のキロ数をお尋ねいたします。

次いで、小さな第2点、狭い市道を広げる際には当然市において買う用意があつてしかるべきものと存じます。住民はそうした身近な施策を求めています。市長のお考えをお聞かせください。

次に、大きな第4点、貯水槽の整備についてですが、先日八幡海岸で火災が発生し、3軒でしたか、全焼しております。あの日は風がものすごく強く、よくあれだけの被害で食い止め得たことかと本当に消防関係者に深甚なる敬意を表するものでございます。なお、現場近くのシーサイドホテルのプールを使ったことも消火に大いに役立ったと思いますし、もし仮にシーサイドにプールがなかったといたしたならば本当にどうなったかと思ひますときに、本当にぞっとするものがございます。

そこで、お尋ねいたしますが、全市的に見て、現況の貯水槽だけで十分であるかどうかを——一定の基準に照らし合わせて十分であるかどうかをお聞かせください。

小さな第2点、もし既存のもので十分でないなら今後どのように充足していくのかをお尋ねいたします。

なお、小さな第3点、建設にあたり住民負担を軽減する必要があると思ひうがどうかでございしますが、400立米のものをつくる場合は約6、700万円ほどかかると聞いております。そして、地元負担は8分の1となっております。これはなかなか出せない部落もあろうかと思ひます。したがひまして、小さな出せない部落は絶えず火災におびえていなければなりません。私はやはり貯水槽は市の計画に基づいて計画をしっかりと立て、負担をとらず、逐次建設していくべきだと存じますが、市の御所見をお聞か

してください。

最後に、第5点、城山と観光についてですが、長らくの懸案でありました城山がだんだんと整備されていることは喜びにたえません。今後の創意工夫、努力の積み重ねによって城山が観光の拠点になっていくものと思います。城山まつりに踊りを取り入れたことは私は特筆に値するものと思います。そこで、お尋ねいたしますが、小さな第1点は、現在までの整備状況、小さな第2点は、今後の整備計画、小さな第3点は、観光面における城山の位置づけについてをお尋ねいたします。

城山の整備もここまできたのですから、あと一息で立派な観光の拠点となるかと思えます。なお、先にも申したとおり踊りを取り入れたのでこれを数日間、連日催していったらそれだけで立派な城まつりとなり、観光面に大いに寄与できるものと私は信じます。市長の所見をお聞かせください。

なお、今回、城まつりに犠牲者を出しましたが、市はこれにどのように対処したか。毎年山車、みこしを出して祭礼色を出していくのかどうかを合わせてお尋ねいたします。

以上の5点にわたり質問いたしました。御答弁により再質問させていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 横溝議員の御質問にお答えをいたします。

大きな第1点、127号バイパスとその排水対策についてでございますが、まず小さな第1点、完成期日の見通しでございますが、千葉国道工事事務所では全面供用開始は中期計画としておりましたが、用地買収の状況並びに工事着工を見ますと一部供用はかなり早くなるものと考えられますが、国の財政状況もあり、具体的な日時は判明をいたしません。

次に、小さな第2点、バイパスの構造でございますが、基本幅員は25mで上下4車線と2mの中央分離帯、両側に1.5mの停車帯、3mの歩道が設置され、この歩道の下層部分に排水用の暗渠が全線にわたり設けられております。

小さな第3点、測量の見通しでございますが、富浦境から平久里川までは一切の測量が完了し、平久里川から国道128号までの区間については幅ぐいの設置が終わり、一筆測量も58年度中に実施する計画でございます。

す。土地買収につきましては、平久里川以北の部分で面積3万6770㎡、13億5200万円で一部の物件があるものを除きそのほとんどの買収が完了いたしました。

小さな第4点、排水対策についてでございますが、道路が築造されることにより分断される地域については、バイパス整備の段階で直接関連する地区の排水路は国において計画をされております。

次に、小さな第5点、国道128号との交差点における車両の混雑についての御質問でございますが、千葉国道工事事務所が千葉県公安委員会等関係機関と協議をし、適切な交通処理がなされることとなります。

大きな第2点、市街地の排水対策についてでございますが、小さな第1点、市内において排水対策を講ずる必要のある箇所はどこかという御質問でございますが、降雨の状態、地形等によって変化するものであります。集中豪雨時には芝崎、八幡、三軒町、六軒町、南町、青柳及び柏崎地区等で道路冠水が生じる場合があります。

小さな第2点、これら箇所の排水方法をどのようにしておるか、その方針と処理の経過について御質問でございますが、現況調査を実施し、基本計画が策定してある下水路は整備中であり、今年度中には八幡都市下水路が553mのうち167m、北条中央下水路が963mのうち107m、南町排水路が639mのうち68m、それぞれ整備されます。

なお、このほかにも基本計画の策定が終了しているもの、また計画しているものもありますので、市の財政事情等を考慮しながら整備したいと考えております。

次に、大きな第3点、狭い市道の幅員の拡大についてでございますが、まず小さな第1点、市道の幅員別キロ数についての御質問でございますが、昭和58年4月1日現在、5.5m以上72.8km、4m以上5.5m未満が154.3km、3m以上4m未満が35.3km、3m未満161.1km、合計423.5kmでございます。

次に、小さな第2点、狭い市道を拡幅する際、市において買収の用意があるかどうかという御質問でございますが、市道は860路線、総延長423.5kmで、うち幅員3m未満の延長は161.1km、38%でございます。この改良を推進するためにはもちろん地域の皆さんの御協力が得ら

れなければできませんが、市といたしましては将来応分の負担をすべく慎重に検討をしたいと考えております。

大きな第4点、貯水槽の整備についてでございますが、その小さな第1点、現況で十分であるかどうかという御質問でございますが、貯水槽につきましては現在長期計画に基づき毎年4基乃至6基を予定し、地元消防団、地域住民とともに努力をしておりますが、新興住宅地及び用地確保が困難な地域等を考えた場合、必ずしも十分とは言えませんが、充足率は県下他市に比べて平均以上でございます。機械力の強化と消防自動車の中継技術の向上により、万一の場合、遠距離からの水利を得て消火活動に対処をいたしております。

次に、第2点、今後の充足方針についてでございますが、消防水利の基準による充足率は現在68.7%でございます。今後充足率75%程度を目標としていく考えでございます。

次に、小さな第3点、建設にあたり住民負担を軽減する必要があると思うがどうかとの質問でございますが、消防機械、施設の地元負担については段階的に軽減及び廃止を図ってまいりましたが、現行では防火水槽設置及び詰め所建設については8分の1の負担となっております。防火水槽の地元負担については従来6分の1を57年度より8分の1としたものでございまして、既存のものとのバランスを考え軽減または廃止について今後検討をしてまいります。

大きな第5点、城山と観光についてでございますが、小さな1点、現在までの整備状況という御質問でございますが、公園拡張のため現在まで2万5388㎡の用地買収をいたしました。施設では56年度に天守閣型の3層4階の博物館分館、延べ面積493㎡を建設、南総里見八犬伝に関する資料を展示してあります。また八賢士の墓への園路、安全柵を設置、さらに57年度には園路の建設、その他水銀灯、時計塔を寄附により設置いたしました。58年度には博物館、地上2階、地下1階、延べ面積1694㎡を建設し、館山市の歴史と民俗に関する資料が展示してあります。博物館入口には彫刻の径を建設し、彫刻9点を設置、市民の美的交歓の場を広げ、市民文化の向上を目指すものであります。また展望広場には芝生を植栽し、危険個所に安全柵等の設置をいたしました。

小さな第2点、今後の整備計画でございますが、公園入口付近に駐車場、疎林広場の造成と子供のために児童遊園地、ちびっこ牧場、お年寄りや御婦人のために日本庭園、万葉植物園、グループや家族連れの憩いの場としてピクニック広場等を整備する計画でございます。

第3点、観光面における城山の位置づけについての御質問でございますが、城山公園は市民の憩いとレクリエーション及び文化教養の場であるとともに、ここに訪れた過去1年間の観光客等のデータからいたしまして南房総の観光の拠点の一つとして育っていることは事実でございます。今後各種団体等の協力を得ながら四季を通して催事を行うとともに、あらゆる機会をとらえ宣伝に努め、地域の観光振興面からも城山公園の施設を有効に生かしたいと考えております。

なお、城まつりにおける犠牲者の件の御質問ございましたけれども、これは城まつり実行委員会が当面の処理に当たっているわけございまして、まことに遺憾なことでございますので、今後はこうしたことのないよう十分企画面において検討いたしまして城まつりを実行すべきだと考えております。

以上、答弁を終わります。

○10番(横溝 功君) まず、第1点でございますが、いまの市長の答弁で十分足りておることでございますが、だれが聞いてもいつでも中期的とか、早くできるだろうというようなことでございまして、行革とかそういうものに関連して、やっぱり答弁がどうもすっきりしないので、いつもそういった、いつ完成するのかということが出ると私は思います。答弁がなかなか進まないでしょうけれども、やはりいつまでにつくるんだと、市がやはり——それは国がやることなんです、市の方も強く、いつまでやってくれとか、困るんだということを私は要望して、すっきりとしたものを一応打ち立てて——それが若干ずれるとか、それは仕方がないことでございますが、いつもただ中期的だ、早まる見込みだというだけでは、どうも何ら市の取り組み方が本物かどうかというあれがあるわけです。漢の人たちもやるんなら早くやればいいのにといいことを言っておりますし、この点再度私は市が国に折衝するかどうかをまずお尋ねいたします。

○経済部長(山田俊康君) 市におきましては、市長が国道127号の期

成同盟会の会長でもありまして、いろんな機会に国に対して要望しておりますし、早期完成に向けての陳情等も何回となく行っておるのが実情でございます。

今後、御指摘のように早期完成に向けていろいろ折衝を重ねてまいりたいと考えております。

○10番(横溝 功君) いまの答弁でおおむね了解するところでございますが、早期、早期ということではなくて、重ねていつまでというようなことを強く迫って、1日も早くできるように御配慮をお願いいたします。

それから、次に、さっき——小さな第2点ですが、幅員25m——何車線であるかの御答弁がなかったような気がするんですが、いかがですか。

○経済部長(山田俊康君) 市長からお答え申し上げましたように、上下4車線ということでお答え申し上げました。片側2車線ということで計画されております。

○10番(横溝 功君) わかりました。

あと、排水対策ですが、答弁にありますように、国においては排水路をやるという答弁がございました。国で行う排水路の規模とか、そういうものはお分かりでしょうか。分かっていたら——非常に重大なことだと思いますよ、分かっていなければしょうがありませんけれども。やはり事を進めるのにはそういうこともやはり大切だと思いますよ。さっき市長の答弁で水路も考えておるということでございましたが、どのような水路であるかをお聞かせ願いたいと思います。

○経済部長(山田俊康君) 市長からお答え申し上げましたように、この国道バイパスがつくられることによりまして起こります——この道路がいままでの水の流れを変えるようなところにつきましては、当然国がこれに関連する排水路をつくっていくということで考えております。また市との協議も行われております。ただ間接的に起こってまいります問題については、それぞれの水路管理者と協議して——と言いますのは、農業用の水利等につきましては土地改良との協議も進めながら実施しているのが実情でございます。

○10番(横溝 功君) いまの段階では、その程度の答弁だと思いますので、(笑声)これ以上言っても……。

それから、交差点における混雑ですが、十分配慮するだろうということですが、私はやっぱり相当混雑すると思うんですよ。ということは、私だけの考えですけれども、いままで海岸道路を使ったのがあそこから曲がったりした場合、国道の方は2車線ですから、なかなか回りにくいし、それで飯塚薬局との間の距離も狭いし、いろんな観点からあそこは混雑すると思いますよ。ですから、十分標識なども立てて交通事故も起こらないように市の方としても御配慮を願いたいと思います。

あとは、関連してですけれども、私は混雑するということにかんがみまして、さらに市道を——たとえば、変電所の先につくるとか、南北につくるとか、そういうことをバイパスの手前で、九重の方から来て手前でそういった抜ける道路を私はやっぱりつくるべきだと、こういう観点からこの問題を出したわけでございますので、これは関連でございますので要望いたします。

次に、排水路でございますが、市が積極的に北条、南町、中央排水路——きょうも新聞に入札というようなことが出ておりまして、また八幡の富士ディーゼルの海側にやっていること、非常に市の努力に対して敬意を表するものでございます。

一応、いまやっている八幡ですか、あるいはやろうとする北条、あるいは南町の水路、いつごろまでに完成するのか。これも見込みになろうかと思えますけれども、一応やっぱり重要な問題だと思います。いつごろまでに、何年に完成するのかひとつお聞かせ願いたいと思います。

○経済部長（山田俊康君） 現在、やっております八幡都市下水路、あるいは北条中央、あるいは南町排水路、それぞれ実施しておりますが、計画そのものは当初計画では5年計画でたとえば八幡都市下水路等立てましたけれども、現実の問題としては国の補助金等の関係からこの完成が2年程度延びているのが現状でございます。

今後の財政事情等もでございますので、現在この議場において何年に完成見込みだと明確にお答えできないのが実情でございます。なるべく早い機会にそれぞれの下水路等が完成するよう今後も努力を傾けていきたい、このように考えております。

○10番（横溝 功君） 一応、いまの答弁で了とするものでございます。

さらに、私は南町の排水路——きょうの新聞で見ますと、幅員 2 m ですか、というようなことで、いままでののが 1.5 m ですか、大して大きくないとおらないというようなことでございます。これも仕方がない——道路幅からしていろんな関係で仕方がないことだと思いますが、これだけで私ははけないような気がいたします。したがって、これは要望になっていくわけなんですけれども、まだ境川蛭子神社からずっと 2 中の方に出る間、底打ちがしてないわけです。これは県の関係になろうかと思いたすけれども、これをひとつ十分底打ちをしてもらうように御配慮を強く要望いたします。

と同時に、川崎商店のところに——上野米屋さんの斜め前ですけれども、沼があるんですけれども、あれを一応調整池にしたかどうかというふうにも考えるわけで、調整池といっても深く掘ってためる以外にないと思うんです、流れるところが同じだから。しかし、一応あそこへ抜ける——いまほとんど埋まっちゃっているわけです。ですからあれを調整池的に、小さいんですけれども、調整池的にどうなのかというふうに考えます。この点いかがでしょうか。

○経済部長（山田俊康君） 川崎商店のそばの池の問題ですが、これは農業用水利というようなことで土地改良事務所等と過去に話し合った経緯はございます。現在も話はしておるわけでございますけれども、今後も御指摘のように多少でも緩和できればということと考えております。

なお、南町排水路の関係でございますが、先ほど答弁いたしました国道 127 号のバイパスとの関連の中で一部分、従前は南町排水路へ流れていた水を、要するに境川に流れていた水を平久里川の方へ流そうというような国道事務所と市の都市計画課等の話等もつきまして、部分的にはそういう作業も行われているというのが事実ですので、合わせて報告をいたします。

○10 番（横溝 功君） 非常に詳細なる答弁ありがとうございました。

なお、先ほど青柳と三軒町というようなことが、そういう指摘されました。三軒町といっても八幡ですか、ということで——あそこは三軒町の境ですかね、よくわかりませんが、水路が八幡の海への、村長さんのところを流れていくわけなんですけれども、もう 1 本手前から水路をつ

くらないと八幡の方の冠水が直らないような気がするわけで、御承知だと思います、村長さんのところに流れていく、もう1本地面の下、これは中央排水路や南町ができるんですから、ひとつそういったことでもう1本海へもっていくようなことがあれば八幡の方もよくなるでしょうし、そういうことで考えていただきたいと思います。

それから、青柳でございますが、青柳の方は非常に、一番現在ひどい状態だと思います。何せ大網の団地とか青柳の団地が建ちましたし、それから田が西にあるわけなんですけれども、また越えて青柳団地というふうになってきているわけで、当然田畑が大きく2カ所も埋まっているわけですから、それは冠水するのも当然かとも思いますけれども、一応やはり法的に合法的に造成したわけでございますので、これを改善するのは市の責任だと考えるわけでございますので、青柳団地の冠水につきましても一番ひどうございますので、早急にお考え願いたいと思うわけでございます。

それから、第3点の狭い市道でございますが、これは市長さんがさっき将来十分考えるというようなことでございますので、要望にとどめますが、どうか、やはりいろんな施設も一応は完備してきているわけでございますので、市長の表現ではあんまり積極的でないような答弁にも考えられますし、やはり交通事故も現実にあるわけですから、市道幅員の拡幅については全額市費をもってやるように漸次ひとつ考慮願いたいということで、これらは終わりといいたします。

次に、貯水槽の問題でございますが、これも市長の積極的な答弁がありました。6分の1から8分の1になったんだというようなことでございますので、ひとつこれを全額ですね、そのように早く近づくように、そうでないと本当にできない部落は多いと思うんです。本当です。ですから全額に向かって早急にひとつ考慮願いたい、このように考えます。

次に、城山でございますが、市長の努力によりまして着々と観光の拠点になりつつあることは市長に対しても、市当局に対しても深甚なる敬意を表するものでございます。城まつりも何か館山市観光協会の方では阿波踊りなんかを取り入れて景気づけたらというような意向もあるようなんですけれども、この点ひとつどうですか。そういったことを採用——申し込みがあるかどうかわかりませんが、どのように考えておりますか、一

応お考えをお聞かせ願いたいと思うんです。

○経済部長（山田俊康君） 城まつりの関係につきましては、それぞれお祭りを実施するにあたりまして実行委員会等を組織いたしまして、その中でいろいろ慎重検討の結果、現在まで事業を実施しております。いままでも、踊り等につきましても採用されておりますが、今後も同じように城まつり実行委員会、あるいは運営委員会等を設けて審議されるものと思っております。また、当然いま御指摘のように婦人会等からも要望があろうと思いますので、そのような方向でまとまるものと考えております。

○10番（横溝 功君） 最後に、もう1点、城まつりに犠牲者が出たわけでございますが、市長の答弁十分わかるわけでございますが、やるんならひとつ——保険金なんか500万しか掛けていないように聞いておりますし、けががあってははいけませんけれども、死人が出てはいけませんけれども、もっと大きい額を掛ける等工夫して、それで責任の所在がどこにあるかというようなことを、そっちだ、そっちだと言わずに、やるんならすっきりした城まつりにしていただきたいと思います。

以上で終わります。

○議長（石井 正君） 以上で10番議員君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午後3時25分

○議長（石井 正君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

次会は、明12月22日午前10時開会とし、その議事は各議案の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問